HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 東北タイの仏教と開発 : 三調査比較 |
| Author(s) | 櫻井, 義秀; SAKURAI, Yoshihide |
| Citation | 北海道大学文学研究科紀要, 120, 左1-左79 |
| Issue Date | 2006-11-24 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/16886 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | CulturalScience120-l7.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 120 （2006）

# 東北タイの仏教と開発
## ── 3 調査比較 ──

櫻 井 義 秀

## 1 問題の所在

### 1－1 Engaged Religion をめぐって

筆者は，宗教と社会貢献について考える際に，英文のタイトルとして，Socially Engaged Religion 或いは Engaged Religion を用いている。これはあまり汎用性のある用法ではないが，社会にポジティブに関わる宗教という意味である。元来は，Engaged Buddhism 或いは Socially Engaged Buddhism という言い方であった社会参画型仏教を拡大化した概念である。ランジャナ・ムコパディヤーヤ（2005）は，日本における社会参加仏教として，日蓮宗大乗山法音寺と立正佼成会を挙げている。筆者は社会参加仏教という語感に若干の違和感を覚えるため，社会参画型仏教或いは社会貢献を目指す仏教という言い方をしたい。

Engaged Buddhism の言葉は，著名な禅仏教僧で平和活動家のティッ・ナァッ・ハン（Thích Nhất Hạnh, 1967）が著作 *Vietnam: Lotus in a Sea of Fire* のなかで初めて用いたと言われている。1963 年に，ベトナムの僧侶ティッ・クアン・ドゥッ（Thích Quảng Đức）が，南ベトナムのゴ・ディ・ジェム（Ngô Đình Diệm）政権の仏教弾圧に抗議して，路上でガソリンをかぶり，火を付け，瞑想に入った。その写真は世界中に報道され（瞬間が撮影された），アメリカは南ベトナムの支援を打ち切り，大統領はクーデターにより暗殺された。この事件に啓発された仏教者や批評家は少なくなく，近年の

日本でも論評は続いている（安満，2003：宮内，2005）。筆者は自己犠牲（Self-immolation）の思想性よりも，行為が生み出された社会状況に関心がある。宗教が政治に関わらざるを得ない状況とは何か。

おそらく，ノーベル平和賞を受賞されたダライ・ラマ法王 14 世や，マグサイサイ賞を受賞したタイのプラウェート・ワシー（Prawes Wasi　地域医療推進者にして仏教的社会改革論者）やチャムロン・スリームアン（Chamlong Srimuang 前バンコク都知事，前法の力党党首）も Engaged Buddhism を実践しているということになろうか。同じく，タイのスラク・シワラク（Sulak Sivarakusa タイを代表する仏教研究者・社会評論家）も Engaged Buddhism の思想家とみなされるだろう。スラクには *Socially Engaged Religion* という書名の著作もある。

インターネット（2006 年 8 月 25 日時点のグーグルの検索）で Engaged Buddhism は 11 万 6 千の検索例があるのに対して，Engaged Christianity は 653 例，Engaged Islam は 254 例，Engaged Confucianism は 187 例である。Engaged Hinduism は 13 例。ちなみに Engaged Shintoism の用例はない。Engaged Religion の用例が 275 例しかないところをみると，Engaged は主に仏教に冠して用いられ，それが他宗教にも適用された用例があるということであろう。

筆者が Engaged の含意として問題にしたい論点は二つある。第一に，文化的バイアス，第二に政治的志向性の評価である。

英語の用例は当然のことながら英語圏の文化的バイアスも含んでいる。仏教は出家者の宗教，個人の解脱を目指す哲学・瞑想，或いは山里の寺院や歴史的建造物としての古刹において学僧により営まれる密教的な宗教という印象が欧米の人々にあるのかもしれない。ウェーバーも宗教倫理の類型論において，現世否定型の宗教のうち，ヒンドゥー教と仏教が現世逃避型の宗教とし，プロテスタンティズムが社会改革型の世俗内禁欲主義を持つと考えた（ウェーバー，1972）。出家者がめざす解脱は厳しい修行の果てにあるのだし，在家にとって涅槃は浄土にある。救済が現世及び現世的な地位達成にない以上，仏教者が社会改革を直接めざすことはないという考えであろう。その点

で，ベトナムの反政府活動やダライ・ラマの平和運動，タイの仏教に基づいた社会改革論には，敢えて社会に関わるという Engaged のイメージが見られたのではないだろうか。そうした仏教の新しい動きは，近代化への対応という思想的背景を持つものとして評価されたという面もあろう。

アメリカの Christopher S. Queen（1996）は著書，*Engaged Buddhism: Buddhist Liberation Movements in Asia* において，政治に強く関与する仏教運動を紹介している。日本では創価学会の政治活動や平和運動が紹介されているが，期せずして，日本における Engaged Buddhism の歴史的耐久性を明らかにしている。日蓮主義仏教運動の中核にある立正安国論には，政治権力への接近（北条時頼への提言），国家的危機意識（蒙古襲来），宗教的絶対主義（他宗排撃）など，ナショナリズムと接合される要素が見られる。明治・大正期の少なからぬ国家主義運動が日蓮系在家教団に胚胎した（大谷栄一，2001）。

戦後の在家主義にたつ日蓮系教団は創価学会，霊友会，立正佼成会等，新宗教の大教団が多く，それぞれに支持政党や推薦候補者を決めて，政治への参加意欲を示している。中規模ではあるが，妙信講が改組された顕正会においては，法華経の広宣流布と国立戒壇を日蓮の御遺命として，旺盛な宣教活動を繰り広げている（浅井昭衛，2004）。こうした諸教団は明らかに社会変革型の宗教であり，現世拒否・逃避的瞑想とは無縁である。そうすると，日本には，中世より Engaged Buddhism や Engaged Religion が存在し続けているということになろう。

Engaged Buddhism や Engaged Religion を社会参画（参加）型仏教，社会をつくる宗教というふうに理念型で捉えればそうなる。しかし，このようなとらえ方に躊躇する読者も少なくないことと思う。Engaged Buddhism や Engaged Religion が特定の宗派の宣教や特定の政治的イデオロギーの宣布にとどまらないという思いからかもしれない。Engaged の中味が問題にされるべきではないかと。しかしながら，個人であれ，集団であれ，政治や社会に参画するということは，特定の政治的立場や社会的価値・理念に立つということである。

先に挙げたベトナム僧侶の焼身自殺に政治目的を見る向きもあるかもしれない。タイの思想家や運動家も，タイなりの民主主義的見解に立っている。それらは体制側にとっては行き過ぎた過激思想と見えるかもしれないが，現体制を打倒し，新しい社会を作ろうとするものには不徹底なものである。誰にとっても有益な社会形成などはない。社会参画の実質を Engaged の評価に用いようとすると，人物を評価したり，政治的な功罪を論じたりすることになる。

チャムロン・スリームアンは，1980 年代後半よりサンティ・アソークというタイの仏教改革集団に参加した敬虔な仏教徒である。「法の力」党という政党を結成し，都議会や国会に政治的影響力を拡大しようとした。1992 年，スチンダー大将のクーデター時には，民主主義陣営にあり，非暴力のデモによって政権交代を実現させた。国王は軍の民間人射殺を含む制圧行為に際し，スチンダーとチャムロン両陣営の仲裁に入り，秩序を回復する。その後，チャムロンは政界から引退し，党首の座をタクシン・シナワットに譲り，タクシンはそれをステップに政界への足がかりを掴み，タイ愛国党を結成して数年で首相にまで登りつめた。2001－2006 年にわたる新自由主義かつ強権的タクシン政治の評価は様々に分かれようが，Engaged Buddhist は全く予期せぬ政治的結末をもたらすことになった。そして，タクシン政権は 2006 年 9 月 26 日のクーデターにより倒され，タイの民主主義と市民社会は混迷の渦中にある。

以上，Engaged Religion に関わる概念的，政治的問題にふれてみたが，論議の場を全体社会から地域社会へ移しても，やはりこのような問題から社会参加型宗教は逃れることができない。次節では，タイ地域社会のフィールドにおいて宗教と社会開発の問題を考察してきた筆者の研究をひとまず概観し，本稿の課題につなげてみたい。

### １－２　先行論文との関係

筆者は，東北タイの上座仏教寺院のコミュニティ活動と地域開発の関連について，2000 年以降，３本の論文を発表している。

①「地域開発に果たす僧侶の役割とその社会的機能」(『宗教と社会』6 号，2000)では，上座仏教が社会に果たす順機能的側面と逆機能的側面を論じた。僧侶が，住民参加型開発（地方村落の道路や貯水池等インフラの整備，米銀行・水牛銀行・貯蓄組合等の住民自助組織の結成，病院や学校への資金提供，縫製や農産物加工等の職業訓練や仏教の瞑想指導）に取り組み，地域住民の精神的な指導者，開発のリーダー，或いは後援者として地域に認知されている。このような僧侶達は，タイの研究者や NGO 活動家によって「開発僧」と呼ばれ，内発的発展のキーパーソンとして様々なオルターナティブな発展論において参照されている。しかしながら，コミュニティ開発の域を超えた国政レベルの判断になると，彼等の善意による開発論や社会貢献論には限界が見え隠れする。1997 年，高僧の発案により，下層の農民や労働者から集めた喜捨を金融破綻した国の債務返済に充当した。その結果，下層のなけなしの小金が，金融資本を握る上層にわずかではあれ移転されたのである。宗教的言説，とりわけ仏教のそれは社会的責任を明確にしない。わざわざことあげせずとも報いがあるという発想であろうか。僧侶や善男善女の意図せざる結果であるが，政治社会的機構のなかでルールを貫徹させるためには，善因善果・悪因悪果という理念は必ずしも善果を生むとは限らない。

②「宗教と社会開発 ── 東北タイの開発僧 ──」(『印度哲学仏教学』19 号，2004）の論文は，開発僧の事例に加えて，社会開発論と宗教との接合可能性を理論的に考察した。宗教的救済とは，この世とあの世，世俗的生活と精神的活動を含み，広大な領域にわたる。この世の栄華はおろか必要最小限の財産全てと引き換えに，精神的な充足を求める達人的宗教者（もしくはそのように人々に指導するカリスマ的教祖）や信奉者（true believers）も少なくない。宗教の幸福に関わる理念や民衆の動員方法には，明らかに世俗主義と対立する部分がある。現在の社会開発論には経済開発と人間開発の両側面が認められているが，人間開発の中味については楽観的見通しが多いように思われる。歴史上，千年王国的世直し運動の核は常に宗教であった。後発的近代国家は，人間開発を経済開発に先行させてきた。しかし，現在，エスニック・アイデンティティ（民族主義）や階級意識（共産主義イデオロギー）を体得

させること，国民の領導的社会化等を人間開発と称することにはためらいがある。常識的に考えて，学歴や職業の獲得による社会的地位の達成を可能にすること，すなわち，人的資本の充実という極めて世俗的な発想が人間開発の中心であろう。このような人間開発論と宗教的言説を本来接合できるものだろうか。或いは，どのような場合にそれが可能になり，どのような条件下では幸福な接合が破綻するのであろうか。この問いは極めて大きな問題であり，本稿でも再考するまでには至らない。

③「宗教の社会的貢献 ── その条件と社会環境をめぐる比較宗教・社会論的考察 ──」(『宗教と社会』第 11 号，2005a) の趣旨は，まさにこの問いをめぐって複数の社会貢献をめざす教団の宗教活動を考察したものであった。しかしながら，英国の宗教的利他主義とボランティア・慈善活動，台湾の大乗仏教の菩薩行と福祉活動，日本の新宗教と平和運動等の各事例(2004 年度「宗教と社会」学会大会において，筆者がコーディネートしたテーマセッション「宗教の社会貢献」の各報告) がカバーする領域は極めて限定された地域と宗教伝統であった。社会の慣習・ルールそのものであるイスラームの事例を欠いたことは残念である。

以上が，Engaged Buddhism と Engaged Religion に関わる筆者の具体的な研究であった。この三本の論文において，概念的な問題は整理してあるので，本稿ではもうこれ以上，概念をめぐる議論を展開しない。むしろ，宗教と社会開発，宗教の社会貢献といったライフワークにも似た大がかりなテーマについて言及するよりも，あくまでも地域研究のレベルにおいてデータに基づいた議論を展開しようと考える。

### 1－3　本稿の課題

従来の研究は，開発僧の問題を理論的次元やサンプルのレベルが異なる少数の事例から説明するものが多かった（西川・野田，2001：浦崎 2002：泉 2003)。それらの諸研究については，筆者の先行研究において問題点を指摘してあるので，ここでは繰り返さない。

特定事例・特定地域・特定教団から一般論を展開することには限界があり，

少なくとも関連研究との事例やデータを比較して分析しなくてはならない。実質的な地域研究や宗教研究に貢献するためには，資料に根ざしたむりのない解釈が必要である。学会やアカデミズムの思潮を反映させた大がかりな理論装置を駆使した研究では，後続の研究者が追試調査しにくい。そこで，本研究では，可能な限り，データに根ざした議論を構築しようと考え，事例比較法を採用する。

ここでいう事例比較法とは，社会学において事例研究が一般に用いている仮説発見型の研究方法である。簡単に記せば，次の二点になる。

1）事例に内在する論理（code）を事例間の比較から抽出する。
2）既に存在する理論や言説の傍証として事例を利用するのではない。

筆者はグレーザー，ストラウスのグランディット・セオリーを参考にしながら分析するが，必ずしも従来のグランディット・セオリーが対象としてきた事例の比較ではないことも断っておきたい（Glaser, Barney and Anselm Strauss，1967；木下，2006）。

不思議なことに，開発僧の研究において参照されるものは先行研究の事例そのものではなく，事例から導かれた知見である。そのため，開発僧とは何か，何を行い，いかに社会に貢献しているのかという点が繰り返し論じられているが，開発事項の異同はあまり論議されない。事例のなかに調査者の解釈が既に埋め込まれているような報告も少なくない。それどころか，そもそも事例比較という研究視点がないために，事例を収集する方針や方法が明示されていなかったり，後続の研究者が比較に用いる事項の聞き取りすらしていないこともあったりする。そこで，本稿では厳密な質的調査・事例比較の方法論を採用し，批判されうる（反証可能な）調査研究として報告したいと考えている。

## 2　調査分析

### 2－1　比較事例

本研究で用いる開発僧に関わるデータは次の 3 つの調査研究である。

A　コンケーン大学開発研究所・マハーチュラロンコン大学仏教研究所『開発僧ダイレクトリー』(1991) 南部の東北タイ
B　櫻井義秀　東北タイ　スリン、ブリラム、シーサケットの各県を除く全東北タイ
C　櫻井義秀　東北タイ，ガラシン県ガマラーサイ郡　寺院メッシュ調査

**表 1　調査概要**

| | A　コンケーン大学（東北タイ） | B　櫻井（東北タイ） | C　櫻井（ガマラーサイ郡） |
|---|---|---|---|
| 調　査　年 | 1990－91 | 1995－97 | 1997 |
| 調 査 地 域 | 東北タイ（南部多い） | 東北タイ（北部多い） | ガラシン県（中部） |
| 調 査 方 法 | 面接（評判・伝聞） | 面接（評判・伝聞） | 面接（メッシュ方式） |
| ケ ー ス 数 | 44 | 32 | 71 |

**[調査対象のサンプリング]**

コンケーン大調査とは，コンケーン大学開発研究所がマハーチュラロンコン大学仏教研究所と共に 1990－91 年に収集した開発に従事する僧侶の事例集である。東北タイにおける開発僧の調査では最も包括的なものであり，44 名の僧侶による開発事例が報告集の形で出版された。筆者は，Aの調査項目を参考に，B・Cの事例を収集した。

コンケーン大調査においても，どの僧侶が開発僧かという選定基準は，地域の人達の評判であり，必ずしも客観的な指標を用いているわけではない。しかし，大学の教員とはいえ，タイ国民の常として信心深いか，日常生活において寺院との関係はきれないわけで，地域コミュニティの住民同様に僧や

寺院の評判をおおよそ承知していると考えられる。筆者の調査も同様のやり方で，地域の人々や大学の教職員に開発に従事している僧侶という評判を聞いて，直接訪ねるという方法をとっている。従って，コンケーン大調査Aと筆者の東北タイの僧侶調査Bのサンプリングは質的調査における理論的なサンプリングといえる。開発僧のおおよその特徴が分かる時点まで事例収集を続けたまでである。それぞれ，44 事例，32 事例であるが，事例数にそれほど意味があるわけではない。しかし，従前の調査は一つの事例や数カ所の事例により，開発僧一般を語ろうという試みであったことを考えれば，この程度でも十分な比較データになろう。

Cのガマラーサイ郡の寺院を選択した理由は，1997 年に筆者が 10ヶ月間，東北タイのマハーサラカーム大学において在外研究に従事した際，ガラシン県の教育・宗教局の次長が社会人の修士課程大学院生として同大学に学んでおり，大学教員からの紹介を得て同氏に寺院調査の概要を説明し，ガマラーサイ郡の紹介を得たものである。

ガマラーサイ郡の寺院調査は悉皆調査であるので，少なくとも同地域の寺院の活動に関しては，一般的な知見を得ることができる。この調査の主目的は，東北タイの仏教寺院と地域コミュニティの関係を調べることにあり，必ずしも開発に従事する僧侶だけを対象とした調査ではない。しかしながら，この調査事例をコントロール集団とすることで,東北タイの開発僧の事例が,どの程度，他の一般的な僧侶や寺院の活動と違い，また，重なる部分を持つのかが比較可能になる。これは従来の開発僧調査にはなかった試みといえる。なお，このガマラーサイ郡の調査は別稿でまとめたいと考えており，ここでは比較対照としてのみ参照する。

**[聞き取り方法]**

高名な僧侶やサンガ（タイ僧団）内で高位の僧侶（県僧団長や郡僧団長）に面会し，聞き取り調査を行うためには，寺院関係者の紹介が必要である。そもそも高名な僧侶は在家で面会を求める人への対応に忙しく，高位の僧侶はサンガや地域の様々の活動（県・郡役所関係の年中行事に関わる儀式等）

で寺院を留守にすることが多い。秘書役の僧侶にスケジュールを尋ね，面会のアポイントを取らないことには会えない。

筆者の場合，マハーサラカーム大学東北タイ文化研究所において受け入れ研究者となってくれた友人であるワンナサックピジッター・ブンスーム氏が，大学院において指導している社会人学生（県や郡，政府機関の公務員，中等学校教員が東北タイ各県から土日の大学院の授業に出席する）を介して，僧侶に紹介してもらった。彼らは地方の名士であり，寺院においても宗教委員会等の役職を持つことが多い。

B調査はほぼ3年間にわたって，同大学に短期・長期に滞在した折に上記の人々から紹介を受け，面接調査を行ったものである。マハーサラカーム大学は東北タイの中央部にあるため，東北タイ各県へは車で1日あれば移動できる。1カ所の寺院に一泊二日で出かけるのが多い。予め，アポを取っているので，面会時間は午後でも可能であり，1，2時間かけてゆっくり話を伺い，社会事業の現場を見せてもらうこともあった。案内してくれた紹介者にも食事をしながら，僧侶の評判，地域の経済状況等を伺った。

これに対して，C調査は郡を範囲としているために移動は楽であった。大学から車で1時間の県境にある郡であり，地域の中央を県道が走り，両側の村へは舗装道路が通じているために，およそどの村でも1時間半以内に到着できた。

郡の村の寺院・森の寺（修行を目的に僧の宿泊施設になる簡単な庵や分院が寺となったものや，特定僧侶に寄進された寺等）共に，郡の僧団長を除けば，僧はほぼ常時寺院に滞在されている。また特別に高名な僧侶もこの郡に限ってはおられなかった。そこで，特に僧侶や寺院にアポイントは取らずに，直接面会を申し込み，聞き取り調査を行った。また，村の寺や森の寺には電話線が通ってないことが多く，僧侶も携帯電話等を所持していないために連絡のつけようがない。とりあえず出向き，おられたら話を伺うし，おられない場合は隣の村を先に調査するというやり方にならざるをえなかった。1990年代中頃でも，県道沿いの村にようやく公衆電話（メンテナンスが悪く，故障が多い）が設置され，村長宅に緊急の携帯電話がおいてある程度であった。

僧侶の日常は朝の托鉢，お勤め，朝食，休憩・作務，早めの昼食，休憩・作務，お勤めと決まっている。村の僧侶には，托鉢をせずとも村人が朝食，昼食を弁当で運んでくれるところもある。いずれにしても，朝食後の 9 時から昼食前の 11 時の涼しい時間帯に話を伺うのがベストである。午後は僧侶が昼寝をされていることが多い。高齢の僧になると，午前中もお休みになられていることもある。午後は，夏季には 40 度，冬季でも日中は 30 度を超す（朝夕は 20 度，山沿いでは 10 度くらいまで下がる）ので，トタン屋根の庫裏で話を聞ける状態ではない。従って，大学の町を朝 7 時から 8 時の間に出て，目指す村の寺院に 9 時前に到着し，僧侶の都合を伺って小一時間ほど話を伺い，隣の村の寺へ移動するというのがＣ調査のルーティーンであった。１日に運がよければ 2 カ所，最低でも 1 カ所をノルマとし，1997 年の雨安居入りの時期から数ヶ月で郡の寺院をほぼ全て回った。

調査の具体的なやり方としては，一通りの挨拶と調査目的を話した後，筆者が用意した調査票の質問文を筆者が読み上げ，調査助手（コンケーン大学の卒業生で臨時雇用）にラオ語（東北地方の方言）に直してもらって進めていく方法をとった。回答は私がおよその項目をノートするほか，調査助手にも書き取ってもらい，大学に帰ってからタイ語でタイプしてもらった。それを筆者が辞書を引きながら翻訳するという形でデータ化した。

最初はだいぶ聞き取りに手間取ったが，２，30 カ所の寺を回った頃から，勘も働きだし，寺院の構えや僧侶の話しぶり・物腰で事業の内容や地元の評価もおおよそつかめるようになってきた。日本でもそうであろうが，学僧には学僧の雰囲気があり，僧団の階梯を上り詰めていく僧侶にはビジネスライクな隙のなさが感じられる。村の僧侶は人の良さそうなおじさんやおじいちゃんといった雰囲気があり，もっとも気楽にはなせる方々であった。高名な修行僧になると，聞き取りの主導権は向こう任せになることが多かった。私は瞑想のことしか知らないのでと口数が極端に少なくなるか，仏法やタイ社会の諸問題を極めて雄弁に語ってくれて質問を挟ませないか，のいずれかである。

**表 2　僧侶の属性**

| 比較項目 | A　コンケーン大 | B　櫻井　東北タイ | C　櫻井　ガマラーサイ郡 |
|---|---|---|---|
| 僧の年齢 | 40－50 代中心<br>平均 48.48 歳 | 各年代へばらつき<br>平均 49.9 歳 | 60，70 代，若年の僧が多い<br>平均 55.89 歳 |
| 僧の安居期間 | 安居期間の長い僧が多い<br>平均 26.66 年 | 各期間へばらつき<br>平均 25.12 年 | 10 年未満が半数<br>平均 15.17 年 |
| 僧の学歴 | 初等教育　42.6%<br>中等教育　52.4%<br>高等教育　 5.0% | 初等教育　55.2%<br>中等教育　21.0%<br>高等教育　13.8% | 初等教育　78.3%<br>中等教育　20.3%<br>高等教育　 1.4% |
| 僧の仏教学 | 仏教教理 2，3 級　9.3%<br>仏教教理 1 級　72.1%<br>パーリ語 3 段－18.6% | 仏教教理 2，3 級　15.6%<br>仏教教理 1 級　74.2%<br>パーリ語 3 段－ 9.7% | 仏教教理 2，3 級　33.8%<br>仏教教理 1 級　60.3%<br>パーリ語 3 段－ 5.9% |
| 開発開始時期 | 1970－80 にかけて<br>1959 年以前　 9.1%<br>1960 年代　 6.8%<br>1970 年代　34.1%<br>1980 年代　50.0% | 1980－90 にかけて<br>1959 年以前　 6.3%<br>1960 年代　 3.1%<br>1970 年代　18.8%<br>1980 年代　37.5%<br>1990 年代　34.3% | 「開発」の意識なし<br>1982，3，5 年　3 名<br>1992，3 年　2 名<br>不明　66 名 |

## 2－2　僧侶の個人的属性（年齢・安居・学歴・仏教学・開発開始時期）

僧の年齢・安居期間・学歴・仏教学の学修歴に関しては，AとBの開発僧群ではほぼ同じと言ってよい。それに対して，Cの一般僧侶の方が安居期間・学修歴共に短く，年齢も高い。学歴は，コンケーン大の調査対象の僧侶のものが，ほぼタイ全国の平均に近く，一般僧は東北タイの村落平均に近い。それに対して，筆者が調査した東北タイの開発僧では，高等教育修了者が極めて高い。これは，高徳の誉れ高い瞑想修行の僧侶であるマン老師の弟子であるテート師とチャー師に師事したバンコク出身の高学歴者が数名いるためである。

開発に従事する僧侶が止住している寺はコミュニティの拠点寺院（区・郡の僧団長がおられる）であることが多いため，僧の経歴をみると安居歴・仏教学学習歴も高い。一般僧は村落レベルでは，村の高齢者による出家が多いため，村人並みのものになっている。村で一時出家した若い僧も，僧侶とし

て安居を重ねる中で，拠点寺院，バンコクの名跡寺院で学習する機会を得る。東北タイでは長らく貧困層の男児が学歴を得る手段として出家があり，小僧から沙弥になり，寺の日曜学校で学習し，比丘となってからマハーチュラロンコン，マハーマクット等の仏教大学を卒業して還俗するものが少なくなかった。

開発開始の年次をみると，およそ次のような傾向が伺える。

1960－70 年代には東北タイ開発政策の一環として，少数民族や非タイ系民族において精霊崇拝と仏教が混淆している地域に地方布教の動員が，時のサリット政権によりかけられた。その結果，タンマ・トゥート（仏法の使節），タンマ・ジャリーク（仏法の布教）という名目でバンコクの青年僧が東北地方に派遣されたのである。コンケーン大学や筆者の調べた東北タイの開発僧達は，この時代の開発のスローガンをかなり内面化していた。

1980－90 年の間，開発に従事する僧侶が増えてくる。この時期，開発の主体は政府や軍の開発計画に準じた公共事業と，海外 NGO の傘下にあるタイの地域開発 NGO であった。僧侶が開発に従事する場合，地域開発 NGO 等との連携が多くみられ，コンケーン大が調査した事例はそのような開発僧をフォローしている。

1991 年以降は，タイ経済成長の余剰が地域開発等に還流した時期である。コンケーン大学調査はこの時期を扱っていないが，櫻井が調査した開発僧や一般僧はこの時期に様々な開発事業を起こしたものが多い。2 つの傾向が見られる。一つは，出稼ぎ農民や都市へ移住した人々が故郷の寺にタンブン（積徳行として布施）する金額が増加し，寺院を立派にするだけでなく，余剰資金を用いた様々な事業展開が可能になったことである。もう一つは，篤志家が東北タイの高名な僧侶に帰依して相当の資産を出して寺院の建設や僧侶の事業を支援するケースが増えてきたことがあげられる。

なお，コンケーン大学と櫻井調査の東北タイの開発僧による開発時期を 1980 年代までに限定してみていくと，櫻井調査分でも 1980 年代は 57.1％になり，コンケーン大学の比率 50.0％に近くなる。僧侶による地域開発は 1980 年代から本格化したとみてよいだろう。

**表 3　開発事項の比較**

| 比較項目 | A　コンケーン大 | B　櫻井　東北タイ | C　櫻井　ガマラーサイ郡 |
|---|---|---|---|
| 開発内容 | 自助組織（米銀行，貯蓄組合）・職業支援が多い | 自助組織形成が少ない | 米銀行１例のみ |
| | 瞑想修行への言及なし | 瞑想で高名な僧（東北タイ苦行僧の弟子筋→霊験あらたか） | 瞑想と説法はセット（道場も多い） |
| | 土木治水にも力点 | 土木治水の開発 | インフラ整備に非関与 |
| | | 教育・学校支援大 | 教育・学校支援大 |
| | 託児施設 | 託児施設 | 託児施設（サンガの方針） |
| | 森林保護 | 植樹等 | 植樹等 |
| | 寺への言及なし | 寺の開発 | 寺の開発 |

備考：網掛け部分が開発の独自性として強調したものである。

## 2－3　開発内容

本稿では，A，B，Cの調査のうち，Bの調査のみ，開発事項を含めた調査データを付録として収録した。Aのデータは『開発ダイレクトリー』に収められているし，翻訳部分を全て掲載するには多すぎる。また，Cの一般の僧侶に関わるデータは別稿に記載しようと考えている。A，B，Cの開発項目（事項の有無）と僧侶の属性のみを簡易的に示した表を別表１－３として付録につけてあるので，それも参照していただきたい。

以下では，別表１－３から要約しうる項目を開発内容の比較として示しておいた。

まず,開発の内容に関わる各データ間の相違点を年代ごとにみていきたい。

1960－70 年代に開発を始める初期の開発僧は，そもそも僧侶としてユニークな存在である。櫻井調査のデータでは，寺院内に文化財の展示・保護施設を作る等の例があった。タイの寺院では古色蒼然としていることを仏教の隆盛と解釈しない傾向にあり，仏像や仏塔に金箔を付けて信仰の篤さや仏への崇敬を示したり，新しい寺院の施設や用度品を次から次へと寄進して功徳を

積んだりするのが普通である。従って，歴史的な遺物を保存している寺院はそれだけで博物館の役割を果たし，近隣から珍しい寺，観光の場としてさらに多くの信徒を集めることになる。僧侶の才覚とも相まって，集積される喜捨が様々な事業資金になる。

1980－90 年代の特徴は，コンケーン大の開発事項に特徴的な自助組織の創設による地域住民参加型の開発である。これは NGO の開発方法そのものでもある。僧侶が指導したというよりも，NGO がコミュニティのリーダーとして僧侶にターゲットを絞り，僧侶の指導の下，地域住民の結束や協働を促したという事例が多い。米銀行や水牛銀行，貯蓄組合，信用組合の結成は，政府系の金融機関・事業組織・農業協同組合が未発達な時期に，NGO が住民のポテンシャルと村落的互助協働を組織作りに利用したものである。

開発僧をタイでいち早く調査したピニット・ラパタナーノーンは，村落の経済レベルに応じて僧侶が開発の第一線で旗振り役になるか，後方から後援者の役割を果たすかが決まるのではないかと述べている（Pinit, 1985：66-77）。確かに，1980 年代，地域の開発は全く遅れていた。雨期には川やため池が氾濫し，道路が水没して大きく迂回しないと行けない村落が少なくなかった。土木治水事業が必要だったのである。また，村落に商品経済が浸透し始め，稲作が望めない畑地や山村において換金作物栽培が本格化した時期に，多くの農民が農産物仲買のミドルマンや町の金貸しから高利で借金をし，農産物の価格が下落した際や不作の年に，農地を失っていった。このような時期には，農民の自助組織形成が不可欠であった。

しかし，1980－90 年代のタイ高度経済成長の恩恵が地方へ波及するようになると，地域開発の事項が，インフラ整備から社会保障・福祉的施設（託児施設や学校の充実），及び急速な社会変動や物質文化に心の平安を乱された人々が精神修養を欲するようになり，僧侶が瞑想の道場を提供することになる。コンケーン大学調査の開発僧の事例を補足的に調査してきた泉経武によると，1990 年代後半には殆どの寺院が開発事業を停止していたという（泉，2002）。低開発の時代に要請された社会的インフラの整備・充実が，もはや僧侶の仕事ではないと僧侶自身も考え，地域住民も考えているということでは

ないか。

開発僧が行う開発の中身はまさに多様化しつつあり，僧侶・寺院本来の社会的役割の領域に回帰しつつある。実際，NGO 型開発を行うタイプの開発事例は櫻井調査のデータには殆ど見受けられなかった。また，一般の僧侶はここまで地域開発のイニシアチブを取ることがない。従来の開発僧のイメージは，この自助組織作り，地域開発 NGO との連携であったが，これは時代的な影響ではなかったかと考えられる。むしろ，僧侶のイニシアチブや寺院の地域内活動は，伝統的なコミュニティに埋め込まれた要素と，1980 年代後半から 90 年代にかけてタイ社会の経済的底上げがなされた時期に生じた余剰資金の転換利用という要素が強いのではないかと考えられる。

僧侶や寺院がコミュニティとの関わりにおいて果たす伝統的な役割とは何か。一言で言えば，僧侶は地域の知識人であり，寺院は地域のセンターである。3 つのデータを見比べると，開発の内容に関わる共通点もかなり見受けられる。環境保護・植樹や教育支援である。特に，森の寺は，日本で言えば鎮守の森に匹敵する森や林の中にあり，僧侶の修行や在家の瞑想・持戒の場として，静謐な環境を保っている。村の共有地にある森は，田や畑にすることができない。

寺院は長らく，1．修養，2．教育，3．医療のセンターであったし，この機能は，現在も生きている。一般の僧侶達が守る寺院においても，修養の場であることに変わりないし，区の僧団長や郡の僧団長がいる寺院には託児施設や日曜学校の施設がある。村の僧侶は薬草や民間治療に長じているものが少なくなく，骨接ぎや慢性病の治療などを行っている。櫻井調査の開発僧には，神霊治療や卜占，各種の霊験を示す祈祷の御利益を求めて他県からも信徒というよりクライアントが訪れる名僧もいる。このような業を行う僧侶はサイヤサート（神霊系統）に通じるものであり，師事を願う僧侶や在家も少なくない。

先に述べた瞑想修行で有名な高僧や神霊治療の僧侶の元には相当の喜捨が集まる。修行を重ね，アラハンの域に達した僧は神通力を自在に操り，天界にまで行くことができると信じられている。このような僧侶が触れたモノや

衣服，私物には特別な力が宿るとされる。僧がはき出したびんろうじの滓(嗜好品）も天日干しして，お守りに詰め，自動車のバックミラーにつり下げれば，けして事故は起こらないといわれる。少なくとも大事故でもケガはしないと考えられている。また，こうした僧侶謹製のクルアン（小仏像が彫り込まれたメダルや石膏等のお守り）は高値で専門の古物商に売買されている。どれほどの御利益・御加護があるかは信心次第ともいえるが，僧侶がもたらす功徳にすがる人々は多い。在家の人々は僧侶からいただいた功徳と引き替えに，相当のお布施を僧侶個人や寺院に献上する。当初，このような浄財は寺院を充実させること（僧堂や説法所，布薩堂，庫裏，鐘楼，山門や塀，火葬台等，寺院に必要最小限の施設の充実に充てられ，既存の施設は立派に化粧される）に用いられる。しかし，ほどなく，その浄財のトリックルダウンが，寺院の社会事業に活用されるようになる。高度経済成長は，このトリックルダウンを大幅に増やしたといえそうである。櫻井調査の開発僧の事例は，大半がこのような高僧や，先に述べた技を持つ僧侶であった。

しかし，注意すべきは，少数の「開発僧」を支える一群の普通の僧侶達がいるということである。広範な僧侶に対する在家の人々，村人達の信仰や信頼があってはじめて功徳の交換から喜捨が生まれ，余剰がコミュニティを潤すようになる。C調査の事例紹介は別途行うこととし，ここでは東北タイにおける一般の僧侶と少数の開発僧との関係を示すだけにとどめておこう。

### 2－4　僧侶・寺院の社会的背景と開発との関係

僧侶の出身背景を見ると，コンケーン大と櫻井調査の開発僧･一般僧共に，タイの慣習に従い,男子が 20 歳過ぎに一時出家したものが長期間出家しているもの，或いは沙彌がそのまま比丘になっているものが大半である。農民の子弟が多く，わずかに櫻井調査の高名な頭陀行僧（瞑想実践）に入門した中間層で高学歴の僧が散見される程度である。東北タイの出身者が頭陀行の後に自分の故郷か，近隣の県の寺に止住するのが普通である。

村人が出家する一般の僧，コンケーン大学調査の開発僧，櫻井調査の開発僧の順に故郷に戻る率が高い。この数値は僧侶の属性そのものである。ガマ

**表 4　僧侶と寺院の社会的背景**

| 比較項目 | コンケーン大 | 櫻井　東北タイ | 櫻井　ガマラーサイ郡 |
|---|---|---|---|
| 出身地と寺院所在地の一致度 | 県の一致度　75%<br>ほぼ故郷に戻る | 県の一致度　50%<br>半々 | 郡の一致度　90%<br>出身村で僧侶となる |
| 僧の出家前階層 | 農民 | 農民と都市中間層 | 農民 |
| 僧の出家動機 | 慣習，報恩 | 仏法への関心 | 慣習，余生 |
| 地域開発と僧 | 僧が村の開発において指導者，支援者 | 僧は村開発に後援することもある | 僧が村の開発に直接携わることはない |
| 寺の社会圏 | 地域の信者，NGO関係者等 | 僧は高徳・名僧の誉れ高く，近郷，バンコクからも信者が集まる | 村の範囲を超えない |
| 開発の特徴 | 開発をねらう | タンブンの余剰が開発に回る | 開発にはそれほど関心なし |

ラーサイ郡の寺院の僧侶は，元来が村人であり，途中還俗して結婚し，家族をなすが，高齢期に男やもめとなり，再度出家した僧など，村人としての属性が濃厚である。東北タイにおいて地域の中核寺院や社会事業を行う寺院の僧侶は，故郷へ帰還することよりも村人の招請に応じて止住する寺院を選択した僧である。

僧侶の開発実践についての意識をみると，僧侶が開発のリーダーを自認している割合は，コンケーン大調査がぬきんでて高く，一般の僧にその自覚はなく，櫻井調査の開発僧では，自ら意図することなく開発をすることになったというのが実態である。

つまり，筆者が調査した開発僧は，学僧，瞑想指導者，治療・祈祷者として地域の誉れ高い僧侶であり，在家の布施を大量に集めるために，寺を化粧するだけでは資金が余り，寺院外の社会資本整備（村落，地域の施設への寄付等）に至ったという実態があった。富農や地域の名望家（役人・政治家・商人）は，既に評判の高い寺院に寄付をしたり，まだ世には十分に認められていないが，自分が目を付けた僧侶の後援者として寺院を建立する資金を提供したりする。突然，地方農村の林の中や鬱蒼と生い茂った森の中に，壮大な伽藍を発見したときに，経済的・政治的勢力を功徳の力によって社会的勢力に変換しようとするタイ社会上流階層の文化を感じることがある。

寺の社会圏は，ガマラーサイ郡の寺院が一番狭く，村の域を出ない。コンケーン大学調査の開発僧は近隣の村や地域開発 NGO，或いは開発僧同士のネットワーク（ナーン和尚の開発実践に影響を受けた南部東北タイの開発僧達が結成した仏法と開発のためのネットワーク）に連なる。最も寺院の社会圏が広いのは，様々な意味で高名で有徳の僧侶として近郷はおろか，バンコクにも信奉者をもつ櫻井調査のデータにある寺院である。但し，これらの寺院は，チュラポン王女が年に何度も布施に訪れるウドンタニー県のバーン・タート寺ほどではない。ここにおられるブア老師のような超有名僧は，バンコク市民一般に広く認知されている。事例となった僧侶は，既に述べたように限られた範囲の人々の崇敬を集めている。しかし，3 つの調査全ての寺院に関して言えることは，出稼ぎ者や都市への移住者の布施という行為によって，一村落の寺が首都他の都市圏と結ばれているということである。

## 3　結論と展望

開発僧として典型的に描かれる僧侶の活動は，瞑想修行による自己の内面の開発と，村落の経済水準を高めるために社会資本の充実を図る地域開発の活動と要約される。先行研究では前者の人間開発の観点が思想的なオルターナティブ性として高く評価されたが，これはことの一面でしかない。現実の開発実践では，一般庶民の布施を用いて社会資本を充実する寺院の機能は，コミュニティ・センターとしての伝統的な寺院の機能に由来するものであったし，人々の崇敬を集める僧侶の能力もまた伝統的なものであった。

このことは開発僧の開発事項を年代ごとにみることでより鮮明になった。コンケーン大学の調査データは 1980 年代の開発僧を主に事例としており，当時地域開発の中心的担い手であった地域開発 NGO の住民参加・自助組織創設の開発手法を採用している。これに対して，櫻井調査のデータは 1990 年代の開発を扱っているが，伝統的な僧侶・寺院の活動が復興したような印象を受ける。つまり，地域のセンターとして寺院が精神修養の道場，教育・医療等の補完的機能の場として活用されているのである。人々の僧侶に対する期

待は，開発の指導者や後援者から，宗教的指導者としての本来の役割に期待するむきが強まっている。それだけタイの地域社会も経済的な底上げがなされたとみることも可能だし，地域開発 NGO の役割が縮小しているように開発僧の役割も縮小している可能性もある。出稼ぎや海外からの送金に頼る生活様式が農村社会では一般化し，もはや初期の開発僧達が考えたような自足的生活，節制だけでやれない状況になってきた。子供を農民にするつもりであればともかく，勤め人にしようとする農家の親世代には，学費のために現金収入が必要である。地域の産業化がなかなか進行しない地域では，農民としてその土地で生活する生き方から，家族のために生活様式の変更や移住も辞さない生き方に変わりつつある。

村と寺，村人と僧侶が不可分の存在というのは，理念ではなく現実である。村落開発において僧侶・寺院は社会資本であり，寺院の発展には村人の布施が欠かせない。僧侶のリーダーシップが要請された開発の時代について，本稿では詳しく述べた。もう一つの要素としては，開発が要請される生態的環境というのも考慮に入れるべきであろう。本稿では，十分に触れることができなかったが，要点のみ述べておきたい。

コンケーン大学の調査地域は，東北タイのうちでも南部・中部が多い。特に，カオヤイ国立公園の山地によってタイ東部とカンボジアから分けられるコラート盆地は，内陸部の乾燥地域であり，森林伐採による生態環境の変化もあって旱魃や洪水に見舞われる。中部はコラート高原であり，低地と丘陵が交代して出現するような風景であるため，中央部のマハーサラカーム県では森林被覆面積が１％以下にまで耕地化が進んだ。その効果はやはり雨期が短くなり，天水依存の農業が打撃を受けたことである。北部はラオスとメコン川によって隔てられているが，東北部の中でも比較的湿潤であり，ルーイ県にはまだまだ森に覆われた山々がある。櫻井調査の開発僧は北部と中央部から収集された事例のため，南部と比べれば村落の農業経営は比較的楽であったといえる。少なくとも，1990 年代には僧侶に開発を期待せざるを得なくなるほどの生活の切実さもなかった。一般の僧侶を調べたガマラーサイ郡の村々は県道に隣接し，用水路も走っているため，農業経営の面では恵まれ

ている地域である。しかし，それでも子供達は小学校を卒業すれば，郡役所がある町の中等学校，さらに県庁のある町やバンコクに高等教育や仕事を求めて出て行く。農業経営という面だけであれば条件不利地域・有利な地域ということはいえるが，大きくみれば東北タイの地方農村部の生活は一様に若い世代の流出傾向がみられる。農村家族が出稼ぎ者や都市に移住した世代の仕送りで農地を保全し，かろうじて農業生産を継続しているように，村落の寺院や開発僧の止住する寺院もまた，都市からの喜捨により維持され，事業展開しているといえなくもない。

東北タイ地域社会は商品経済化の進展によって中部タイ，バンコク都市圏との結合を強めてきたが，グローバル化の時代，タイの出稼ぎ労働者を必要とする中東産油国，東アジア工業国とも関係を深めている（櫻井，2005b）。東北タイの女性の中には，よりよい暮らしを求めてヨーロッパの産業国の男性と結婚するものが多い。バンコクを経て日本にたどり着くものもいる。移動していく人々が情報交換する場所として，日本を含めて世界各地のタイ寺院がある。

バンコクは，古刹・名刹に事欠かない都なのであるが，多くの労働者や移住者，若者世代が気軽に行けるような寺院ではない。何よりも郊外やスラム等から通うことに時間がかかる。豪壮な布薩堂や僧堂には自分たちの記録を残せるような場所も見あたらない。そういうこともあってか，瞑想法と集合的儀礼を駆使して自己実現のメニューを提供し，バンコク都市民の心のよりどころになりつつあるのが，タンマカーイ寺院である（矢野，2006）。

今後，筆者が調査した開発に従事してきた寺院や村落の寺院はどのような変貌を遂げ，地域社会の中でどのような役割を果たしていくのであろうか。おそらく，開発の中身が経済的側面の社会開発から人間開発に移行するだろう。その場合，あえて開発という言葉を使い続けることもない。タイにおいて開発（phattanaa）という言葉は開発主義の実践的用法を含意する。タイが開発の時代から，ポスト・モダンや個としての人間を尊重する成熟化した社会に移行しつつあるのであれば，その時代にふさわしい僧侶の呼称があるのではないか。もしくは，あえて名前を付ける必要もなく，タイ上座仏教と地

域社会との関係を長期間これまで同様に眺めていけばよいのかもしれない。

## 文　献

浅井昭衛，2004，『日蓮大聖人に背く日本は必ず亡ぶ』富士大石寺顕正会。

安満利麿，2003，『社会をつくる仏教 ── エンゲイジド・ブッディズム ──』人文書院。

Christopher S. Queen, and Sallie B. King eds., 1996, *Engaged Buddhism: Buddhist Liberation Movements in Asia*, State University of New York Press, Albany

Glaser, Barney and Anselm Strauss, 1967, *The Discovery of Grounded Theory: Strategies for Qualitative Research*, Aldine Publishing Company, New York　後藤隆・大江春江・水野節夫訳，1996，『データ対話型理論の発見』新曜社。

泉経武，2002，「村落仏教と開発の担い手の形成過程 ── タイ東北地方「開発僧」の事例研究 ──」『東京外大東南アジア学』第 7 号。

泉経武，2003，「『開発』の中の仏教僧侶と社会活動 ── タイ・スリン県の『開発僧』ナーン比丘の事例」『宗教学論集』第 21 輯。

木下康仁，2006，「グランデッド・セオリーと理論形成」『社会学評論』225 号，58-73 頁。

Max Weber, 1920 'Vorbemerking,' *Gesammelte Aufsatze zur Religionssoziologie*, 3bde. 大塚久雄，生松敬三訳，1972，「世界宗教の経済倫理　序論」『宗教社会学論選』みすず書房。

宮内勝典，2005，『焼身』集英社。

西川潤・野田真里編，2001，『仏教・開発（かいほつ）・NGO』新評論。

Naraseet, phithaphanphon and Sak Pasaandii, 1991, thamniap prasang nak phattana phak isaan, sathaban wicai le patthana mahawithayalai khon kaen, sathaban wicai phutasaat mahawithayalai mahachulalongkornrachawithayalai（開発僧ダイレクトリー，コンケーン大学開発研究所，マハーチュラロンコン仏教大学仏教研究所）

大谷栄一，2001，『近代日本の日蓮主義運動』宝蔵館。

Pinit Laphathananon, phrasog nai chonabot phak isaan kap kaan phathanaa taam lakkaan phug ton aeg, phongaan wicai thaag saasanaa lae cariyatham 2528（ピニット・ラパタナーノーン，1985，「東北タイの僧侶と自力更生的開発」『宗教と道徳研究』66-77 頁。

ランジャナ・ムコパディヤーヤ，2005，『日本の社会参加仏教』東信堂。

櫻井義秀，2000，「地域開発に果たす僧侶の役割とその社会的機能 ── 東北タイの開発僧を事例に ──」『宗教と社会』 6 号，27-46 頁。

櫻井義秀，2004「宗教と社会開発 ── 東北タイの開発僧 ──」『印度哲学仏教学』19 号，

245–275 頁。
櫻井義秀，2005a，「宗教の社会的貢献 ── その条件と社会環境をめぐる比較宗教・社会論的考察 ──」『宗教と社会』第 11 号，163–184 頁。
櫻井義秀，2005b，『東北タイの開発と文化再編』北海道大学図書刊行会。
Sulak Sivarakusa, 1988, *Socially Engaged Religion* Thai-inter religious Commission
Thích Nhất Hạnh, 1967, *Vietnam: Lotus in a Sea of Fire*, New York, Hill and Wang
浦崎雅代，2002，「多様化する開発僧の行方 ── HIV／エイズ・ケアに関わる開発僧の出現を事例として」『宗教と社会』8：79–92
矢野秀武，2006，『現代タイにおける仏教運動 ── タンマガーイ式瞑想とタイ社会の変容』東信堂。

## 付録　B櫻井調査　東北タイで開発に従事する僧侶

1　Pra Chengyuthtana Shinyuto

Wat Dindaen は Poopaan 山地の山裾，岩盤の露出した山肌に建てられており，瞑想修行の場という雰囲気を持っている。Pra Chengyuthtana は博識，年齢のわりに弁舌も達者で，個人的信奉者を広く持つ。彼等からの招請により国内外を周り，布施により，自身の事業を行い，その成果を記念する品々・写真を僧堂に陳列している。自らの事業能力を顕示することでさらに布施を集めようとしているのかもしれない。寺の下の方に村があるが，Dindaen（赤土）に換金作物を栽培する開拓村であり，水田がない。農民にとって，同師は開発の指導者である。

1）出身地：Sakhon Nakhon 市内
2）寺　院：Sakhon Nakhon 市内 Wat-Pa Dindaen（森の寺）Dhammayuth タンマユット派
3）年　齢：35 歳
4）安居年：12 年
5）学　歴：中学校 3 年
6）僧学歴：パーリ語 3 段
7）寺院内地位：住職
8）開発を始めた年：1986 年
9）履　歴：母は多くの寺で僧侶を信奉，援助する在家であり，師自身は寺になじんでいた。俗世のことを考察してみたときに飽き飽きし，本を読んでみて法を学んでみようと思った。簡単なものではなかったが，法の明快さ，神秘さではない深遠さを学ぶのが好きだった。自然科学では，仏教の教えを証明できない。（実践，三蔵，大悟）仏日ごとに仏塔を拝みに行き，1 ヶ月程ゲーンガトム村に居てから，4 年間森に入り，その後，村人を助けるために，橋，道路，寺の庫裏等を建設した。現在は村人の相談役である。
10）開発事業：村人の抱える問題を解決して，美徳を生み出し，衣食住を確保する。社会の開発は，個人をして社会の一員とせしめることで，それによって行動がよくなる。頭陀行中に村人が公共施設を作るのを助けた。橋，道路，診療所など，現在道徳を教えて精神面の開発を計っている。特に悪癖をなくすこと，寺の周辺の自然を守ることなど。
11）開発方法：村人に助けを求めること。特に村，寺，学校の連携が大事であり，そのコーディネート役をやる。これをやっているのは師だけである。こうすることでコミュニティの開発が可能になり，効果を得ることができる。
12）開発と仏法：宗教の言葉を用いて，社会の生活状態を改善し，自立できるようにする。自立しようと思わない，そのような努力をしないで自立できるものはいない。
13）特　技：公共事業のやり方を知っていること。開発の指導者である。薬草の知識。民衆を動員する妙計を持っている。
14）開発の障害：民衆の中には悪癖に染まってなかなか解消できないものがおり，賭博など含めて，こちらの力が及ばないところがある。
15）支援団体：師を支援する個人や団体多数。

16）将来計画：開発の最大の障害となっている民衆の悪癖をなくすことをやっていきたい。

## 2　Pra Somsak Ananyo

Ban Pookaohin thamchaidaitheepnimit 寺は，Nongbua Lamphu 県と Udonthani 県境の山地，Udonthani 側の山裾にある。岩盤の露出した小さな山の頂にある。岩の下にはピープーター（土地の守護神）の祠が数個あり，村人の話では，寺ができる前からあったという。同村はキャッサバ栽培と出稼ぎで生計を立てる世帯が大半であり，付近の農村と比較すれば貧しい。僧侶はキンマをやりながら，世間話を楽しむ。いわゆる開発僧とはだいぶイメージが異なるが，この付近では名刹の一つであり，区の中学校教師が師から教育資金を毎年都合してもらっている。

1）出身地：Nongkhai 県市内 Amper Meechai
2）寺　院：Udonthani，Amper Khutchap，Tambon Khutchap，Ban Phukaohin thamchaidaitheepnimit 寺（森の寺）マハーニカーイ派
3）年　齢：51 歳
4）安居年：21 年
5）学　歴：中学校 6 年卒
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地域：住職
8）開発開始年：1990 年
9）履　歴：19 歳で中学校 6 年を終了後，Nakhon Ratchsima 県の警察学校に入学，1967 年から 1973 年まで警察に勤務し，階級章をもらい，Nongkhai，Amper Sopisai の警察署に勤務した。
10）開発事業：民衆の貧しい生活ぶりを見て，また教育の程度からしても，自力で開発するのはできないと考えた。彼等の怠惰な暮らしと食べるものがない環境（高地のため水田がない）のためである。彼等は貧しさの理由を弁解するが大した意味はない。生活の不安定さ。出稼ぎ，悪癖，生活を向上させようとする気のなさなどが見えたからである。具体的には職業教育。協力して開発するように誘導する。村を繁栄させるためにそれぞれ得意な分野，グループで一丸となって開発する。心身両面において村落の開発に協力する。物質的側面としては，職業教育のための資金を持つ。

　プーカオクーン村は開村 10 年。その隣村のランプーカオェーン村は 20 年。森を開拓した村。どちらも畑だけ。

11）開発方法：村人達が協力し合うようにする。指導者と指揮されるものを分けて，それぞれ責任を分担し，心を合わせて食い扶持を探す。
12）開発と仏法：これまで学んできたことから教えていく。よいと証明されたこと。人間の日常生活に立つものを持つ。そして，生活の中心となる道徳を教え広げていく。
13）特　技：芸術（映画）説法。学校などで教えること。
14）開発の障害：民衆は我慢することが得意でない。教育程度，生活水準が低いので，開発の成果がなかなかあがらない。

15）支援団体：師を支援してくれる会社などの布施。
16）将来計画：村にはまだ小学校がないので欲しい。村人の教育程度をあげたい。

### 3　Pra Sanjitprayuth

いわゆる普通の村の寺（ワット・バーン）である。師自身は僧侶としての活動をやるだけで特に開発は意識していない。

1）出身地：不明
2）寺　院：Maha Sarakham，Amper Kaedam，Tambon Kaedam，Ban Wansaen，Wat Uparat　マハーニカーイ派
3）年　齢：34 歳
4）安居年：17 年（沙彌を含めて）
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1985 年
9）履　歴：学校卒業後，Bangkok に働きに出て，やがて自動車修理工になった。出家する年になってから，故郷に戻り出家し，仏教学 1 級を得るまで続けた。その後，頭陀行に出て誰も僧の居なかったこの寺に着いた。村人の懇請に応じ，以来この寺の開発に努めている。
10）開発事業：この寺に僧は居なかったが，安居入りから僧が居るようになった。村人はスットーロム寺の住職として懇請したが，郡僧団長の要請に応じてこの寺をよくするために村人が協力することになった。庫裡の建設や他の開発事業をやっている。教えの場としてふさわしいように境内内の整備。火葬場の建設。村の子供達の教育施設建設。昼の給食施設。沙弥の教育。
11）開発方法：開発のための資金を得るために，パーパー祭を初めとしたタンブンによる喜捨。年によっては，宗教局からの基金を募る。村人と協力する。
12）開発と仏法：善行をなせば，得るところも多い。その逆も然り。民衆にその地域にあった開発を教えていく。
13）特　技：修理技術。村人が心を合わせることができるような説法をなすこと。
14）開発の障害：資金の欠如と援助してくれる行政の運営方法の問題
15）支援団体：宗教局
16）将来計画：現在はない布薩堂等をたて，宗教的教えの場にふさわしくしていく。

### 4　Tawee Tamothivo

1995 年時点の調査では，森林を守る僧と在家組織の協力体制が典型的に見られたが，1997 年調査では，薬草治療・マッサージ組合など村落の自助組織で行おうとしていたことが病院の事業となっており，伝統的タイ方医療に関する事業は郡の病院に殆ど吸収され，僧は森の番人の役目しかない。政府の事業としても，薬草，民間医療などが脚光を浴びるようになっており，民間の伝統・知識・技術が公定言説化することで，民間の力が奪われていく

典型的事例である。

1）出身地：Khonkaen，Amper Banfang，Tambon Raonadee，Ban Raoyai
2）寺　院：Mahasarakham，Amper Kaedam，Tambon Wangsaeng，Ban Nonkewao，Moo 1，Wat Aranyigawat（森の寺）マハーニカーイ派
3）年　齢：36 歳
4）安居年：10 年
5）学　歴：小学校 6 年
6）僧学歴：頭陀僧
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1994 年
9）開発事業：開発を始めた理由は，Nong-Etao 高地の森を守りたかったということである。この森は Nongkewa，Maka，Nongthii，Nongwaeng の 4 つの村に属している。ここには薬草・木が多数あり，村人がこれを知っていて用いるために残している。そして森を保護し，畑にしないようにしている。開発の内容は，1　薬草になる木にそれぞれ名前の標識をつけた。2　薬草を調査したり，関心を持つ人が県の内外から訪れた際に案内するためのグループを形成する。この薬草に関するデータの収集も含めた広報的活動は郡の病院と新聞社主 Prasan 氏が行った。

この計画を始めたのは Prasan Rattanopanya 氏（獣医師，印刷所経営）であり，薬草グループの一会員である。しかし，氏の計画は現在森林保護に変わっており，薬草による医療は医師に任せている。Nong-Etii 台地は 75 ライの共有地と 6 ライの隣接する寺院の土地である。本来 100 ライ以上あるのだが，中学校に 35 ライ分けてやった。最も大事な活動は村人の火の不始末から森の火事にならないように，伐採しないように監視することである。以前は荒廃した林であったが，師が来てから 3 年で復活した。それは師等がチークやサガリバナの木など 100 種類にも及ぶ木々の植林を行ったからである。師は下枝以外の伐採の禁止規定したが，違反者を処罰できるわけではない。森林保全のために県の木と指定され，この区域を入りにくくしているにもかかわらず，村人は多種のキノコ取りに入る。

森を守る効用は，村人がここに入って食べるものを得ることができる。病気やけがを治す薬草を得ることができ，また売ることもでき，下枝を取って薪にできることであると師は語る。

1995 年時点の調査では，次のような活動があった。

1　ゲーダム郡の薬草コミュニティグループを形成。薬草管理，森林の保護を委員長である僧の指導の元に行う。
2　古式マッサージの研修を行うグループを作る。
3　村人のためにマッサージの奉仕を行う。重要なものは，郡役所や赤十字の年中行事への参加や研修などである。
4　マッサージを仕事として確立する。既に 10 人の村人がこの仕事をしている。

しかし，1997 年 6 月の再訪の聞き取りでは以下のように事態は変化していた。

病院医師はここを薬草病院として用いることを願っているが，薬草研究の場所として用

いるだけでは不十分であると師は考えている。医師，寺，コミュニティの協力関係が本来必要なはずであるが，行政関係の予算（郡の病院）については，僧が計画に参画できないでいる。早い話が上記1から4の事業は病院に吸収され，寺と村の協力による事業はなくなってしまった。コミュニティの自発的な活動が公的組織に移管されてしまったわけであるが，これを開発の仕掛け人である新聞社主は成り行きに任せ，病院では開発の完成度を高めたと認識している。

住職はこの薬草の調査や管理の事業に参加し，薬草の調査は大部分元の民間薬草医療者が行った。70歳になる存命のこの人はノーンテー村スック氏で知らぬものはない。調査後，薬草，薬木に標識を付け，病院で使われる薬草は別に植えている。村，区ごとの薬草グループはそれぞれ250種類の薬草，100種類以上の木の種子を持っているが，日本の制約会社が胃薬にするようなものやパータライジョンといった薬になるものは多くない。村人が病院で薬草による治療を受ける場合には，治療費や薬代を払わなければならなくなった。薬草の知識があれば自分できるが，素人がやるより病院に任せた方が安全なことは確かであるが。

10）開発方法：仏法を尊敬させる。行事に参加させ，皆互いに助け合うこと，いたわり合うこと，役に立つことを知ることなど。

11）特　技：1　民衆を惹きつける説法ができる。2　大工，左官仕事ができる。

12）開発の障害：1995年時点では，「現在，政府，民間の各団体から，開発の各事業や研修をやるための資金を得ているが十分ではない。現在の予算では，薬草の木に標識をつけたり，薬草の種類を皆に知らせる研修やマッサージの研修を行ったり，さらに薬草の植え付けをしたりするのに十分ではない。」ことがあげられた。

1997年調査では，「障害は，村人が森に侵入し，伐採することを禁止できないことであり，より深刻なのは民間医療者等が薬草を売るために取っていき，これらを禁止できないことである。」

その他の開発で寺に関わるものは庫裡を1つ，便所，事務所，電気の敷設。

13）支援団体：タイ国医療研究所，Amper　Kaedamの厚生省の保健所病院，Prasart Ratanapanya医師，家族と民衆のための協会等，NGO。

14）将来計画：1995年時点では，「今年か来年に，病人を治療する病院の建設，薬草サウナ，マッサージのセンターを作りたい。」1997年調査では，「将来は多くの村で共用できる火葬場の建設。夏季の子供達の出家による教育も考えているが，親の中に反対するものがいたり，小学校からこの寺が遠いなど，問題がある。止観の研修は安居の時期に行う。」

### 5　Pra Opan Suviro

いわゆる町の寺，普通の僧である。目立った開発事業はないが，町の発展に資金的な面で寄与している。かつて，師は長らくUdonthan，Amper Khutchap，Tambon Konyong，Ban Nongkung，Wat Sawan住職を務めていた。同村は筆者のタイ最初の農村調査地であり，師とは懇意の間柄である。開発僧という概念すら知らない師であるが，実母が多額の布施を師に対して行ったおかげで資金的に豊かであり，村の事業にはそれなりの資金を出しているのを見てきた。

1）出身地：Nongbualamphu，Amper Naglang，Ban Gutro
2）寺　院：Nongbualamphu，Amper　Meuang，Tambon　Lamphu，Moo　2，Wat Reuang-utaisirimongkon　マハーニカイ派
3）年　齢：48 歳
4）安居年：28 年
5）学　歴：中学校 3 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1969 年
9）履　歴：子供の頃から沙弥になっているので，仏教には親しんでおり，タイ人に精神面での開発を促進させたいと考えていた。
10）開発事業：開発を始めたのは仏教を広めるいい機会だと思ったからである。具体的には，寺内の建造物等。青少年その他への仏教の研修を行う。
11）開発方法：村人との関係を大事に保ち，事前に実践してみせる。
12）開発と仏法：研修等をやって，人々が道徳心を持つようにする。
13）特　技：説法（テートスィアン）
14）開発の障害：あまりない。
15）支援者：行政官や，村人を支援してくれる個人，会社等。
16）将来計画：寺院の施設を完備し，青少年の研修施設を作る。現在よりも，民衆に道徳のことを知らせていく。

### 6　Pra Chamrat Chapanyo

Wat Samran は薬草により薬物中毒患者を矯正的に癒す寺として地域では知られている。Chamrat 師は快活，俳優のような声で，テートスィアンの名手としてひっぱりだこという話もうなずける。テートスィアンとは説法の一種で，道徳的説話を笑い，泣きを適当に織り交ぜながら 2 時間近く，語り，詠う。僧の掛け合いもあり，マイクのエコーをめいっぱい聞かせながらのどをふるわせる僧侶の姿は自己陶酔的でもあるが，聴衆はこれに涙する。これで得た布施を開発資金として，事業展開をしている。

1）出身地：Roi-et，Amper Pathumrat
2）寺　院：Roi-et，Amper Pathumrat，Tambon Nongkaen，Wat Samran　マハーニカーイ派
3）年　齢：55 歳
4）安居年：35 年
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Tambon Nongkaen 僧団長
8）開発開始年：1993 年
9）履　歴：16，7 歳の時に僧になれば幸せになれると思い，説法に熟達するべく 2503 年に出家を決意，20 歳に達してから現在まで比丘である。初めての安居では，自分の村で

三蔵，経法を学び，その後勉強のために村を出た。Mahasarakham，Amper Wapipathum，Ban Kutrai の寺で説法を学んだ。テートスィアンをとりわけ好み，１ヶ月学んだ。村に帰ってから声が良くなった。3 度目の安居では，Amper Wapeepatum，フアルア村の説法僧の所で修行し，経蔵とベッサンタラ（布施太子）を学んだ。1969 年から 2，3 年間別の県を歩き，Koratch に行き，そして現在の寺に戻ってきた。

10）開発事業：開発を行ったのは，この村と寺を発展させたかったからである。その内容は繁栄と善行，寺での行に人々を導くことである。布薩堂，火葬台，僧堂の建設を行い，境内の小学校，来賓を記念した植樹，薬物をやめたい人の救済センター建設を行う。境内に学校を 1993 年に設立。コミュニティの森を保護する。学校に昼食を無料で提供する。託児所を設置する。子供達を送迎する車を用意し，保母を二人，月給 1200 バーツで雇う。寺の資金を提供して幼児を預かり，その間父母が働けるようにするためである。村では青壮年層が出稼ぎでおらず，祖父母が孫の面倒を見ながら，農作業に従事している。いきおい，子供の教育がおろそかになるので，寺に保育施設を設置しようと考えたのである。

11）開発方法：父母に子供を寺に連れてくるように言う。子供に社会性を植え付けることができる。

12）開発と仏法：仏教で教えている実践に従い，子供達に僧侶の事を教え，寺は皆の心を合わせるところであることを教える。

13）特　技：テートスィアンと仏法を広める力。

14）開発の障害：麻薬中毒になった人の治療や子供の託児施設の管理面。勉学を支援されているものが寺の仕組みを十分理解してないこと。教育効果の問題。

15）支援者：宗教局が子供達のために月 1200 バーツ 2 人分の保母の給料を出してくれる。

16）将来計画：社会問題をなくすために，Bangkok に行かずとも働く機会を得られるように，バイクの修理とか溶接等の職業教育を行う。

### 7　Pra Kiti Sanprachot

森の寺であるが，今では Mahasarakham 市街地にある。寺の裏手は大きな溜池，水田が広がる。冗談の好きな僧侶であるが，仏法の核心は人の役割に応じた義務をなすことと分かりやすく説明してくれる。地域の生活全般の面倒を見る。来訪者がひっきりなしにおり，聖水をふりかけたり，祈願したりと伝統的な僧の役割を行う。頼りにされている。

１）出身地：Mahasarakham，Amper Meuang

２）寺　院：Mahasarakham，Amper Meuang，Tambon Waennan，Ban Hintua，Wat Kunchaonaram 寺（森の寺）マハーニカイ派

３）年　齢：67 歳

４）安居年：45 年

５）学　歴：小学校 4 年

６）僧学歴：仏教学 1 級

７）寺院内地位：住職　　僧団内地位：ターソーンケーン区僧団長

８）開発開始年：1987 年

９）履　歴：最初は慣例に従って出家したのであるが，師であった Pra　Sanjitprasit と

Pra Upancha への責務を感じるようになり，師が亡くなってからは仏教の実践を熱心に行うようになった。

10）開発事業：最初は開発に関して色々と相談を受けていた。それから民衆は政府と力を合わせて開発を行うようになった。そして，住職はそれらの活動に協力するようになった。具体的には，村からの喜捨を得て，村内の道路を造る。衛生の講習会や政府の養蚕，機織り研修会等を寺で開く。村人に協力して資金を供出，文書館を作る。米銀行の米倉を境内に建設。村に仏法を教える学校を設置。仏教学 3 級から 1 級までの内容を教える。年間受講生は 50 人。14 の村を管轄している。

11）開発方法：1　決断する際に判断を助ける。2　道具などを援助する。村人から集めた金を寺に保管しておき，寺の委員会が管理する。住職個人が保管しているのではない。

12）開発と仏法：住職は何に関しても協力的であるべきだ。僧は村人に協力し，村人は寺があってこそ生活ができる。

13）特　技：民衆と心を合わせて色々な実践ができる。

14）開発の障害：あまりない。

15）支援団体：行政も運営面で協力的であり，教育機関の支援もある。コミュニティ開発。家族計画センター。大学，教育大学，その他の団体。

16）将来計画：寺院の塀と水道。村のために使える資金の拡充。

### 8　Pra Swan Piyathammo

典型的な森の寺で森を守る僧である。小高い丘状の地形一帯が森になっており，その中に同寺がある。エコロジー的発想を持つ師は，静かに森の効用を語る。数年前，西欧人が寺に 3 ヶ月程滞在していった。

1）出身地：Mahasarakham，Amper Wapipathum，Tambon Nakar，Ban Kuttao

2）寺　院：Mahasarakham，Amper Nachuak，Tambon Nongreua クーカート森の寺　タンマユット派

3）年　齢：41 歳

4）安居年：19 年

5）学　歴：小学校 4 年

6）僧学歴：なし

7）寺院内地位：住職代行　　僧団内地位：Tambon Nongreua の管理役

8）開発開始年：1984 年

9）履　歴：真摯に教育期間が終了するまで頑張り，その後ナードゥーンで縫製の勉強をし，Bangkok に働きに出た。帰ってきて，病気の祖父の恩返しに出家した。最初は 2 週間でやめるつもりだったが，僧の黄衣をまとっているうちに胸がすっきりした。それで生涯僧侶でいれらるようにと誓願した。最初は僧になる決心がつかなかったし，森の近くにいて，人が生まれ，年老い，傷つき，死んでいくのを見る僧が好きではなかった。しかし，そうこうしているうちに僧になる決心をした。一安居過ぎてから，母と恋人は還俗して Sakhonnakhon に戻って欲しいと頼んだが，一緒に出家した僧とともに，Nongkhai，Amper Beunggal，Amper Sayga，Amper Boongkla の各郡を回った。

10）開発事業：「1　社会の中の貧しい人たちと心で結ばれており，彼等の生活をよくしてやりたいという気持ちが起こった。人は寺を頼り，寺は人を頼る。2　木と仏法は極めて近しい関係にあり，木は涼しさと静けさを与えてくれる点で価値がある。それで森の寺の僧は森を守る，自然に頼ることが必要である。これらの全てが心を安らげることを助ける。木を植えることは庫裡を作るよりも良い。心が安静であれば，欲求は起きない。」このように語る師の具体的な事業は，1　1993年，村の中に水道を作る。2　森林保護。現在200ライの森林と20－25種類の木々がある。3　学校の支援。昼の給食，奨学金，教育用備品。4　生徒に勉強させる。

11）開発方法：とにかく自分で企画，運営する。村人はまだ余り助けてくれない。それは，この寺が村から離れているからで，なかなか大変である。

12）特　技：縫製技術。

13）開発の障害：1　時たま開発資金が不足する。2　森林が火事で焼けてしまった。3　殆ど自分一人でやらなければいけないことで，この地域では村人の協力は少ない。

14）支援団体：まだない。

15）将来計画：寺に入る道の整備と焼けてしまった森林の修復。60ライを焼いてしまったので，残っているところを維持すると共に，元へ戻すよう努力する。

### 9　Pra Pichit Thitomaro

Phitchit師はタンマユット派の頭陀行僧である。開発は主として精神面の陶冶であり，説法，瞑想修行方法等で，大学教師など高学歴の人々の崇敬も集める。在家の人が語るには，「開発には様々な方面があり，経済開発だけではない。精神的なものを求めている人も多いので，Phichit師のような方は重要である。」

1）出身地：Kalasin，Amper Muenag

2）寺　院：Nongkhai，Wat Hinmarkpean　タンマユット派

3）年　齢：55歳

4）安居年：19年

5）学　歴：大学卒（Chulalongkorn大学工学部卒）

6）僧学歴：仏教学1級

7）開発開始年：1978年

8）履　歴：Kalasinに生まれる。子供の頃は哀れむ心が強く，よくめぐんだりした。しかし，あまり寺と関係することはなかった。霊験あらたかなお守りの小仏像を好んだ。単純に信じていたのではなかったが。16－17歳の頃から，セージャンコーセート（アヌマーンラーチャトーン）のカーマニット物語（大乗仏教の物語）を読んで宗教に興味を持ち，釈迦がカーマヌットに説いた成果を知りたいと思った。そして，自分にとって一番いい時期に出家しようと思った。

その他に読んだ本として，プッタタート比丘の上座部仏教の本，ブア師によってかかれたマン・プリタトー和尚等である。

こうした読書以外に，どこの僧が本物の実践をしているのかと始終考えていた。一番勉強になったのは，マンの弟子から仏法の実践を教わったことで，それで1978年に出家した。

9）開発事業：民衆に自分で理解して欲しいことは，自分を持つ，信頼するということ，自分の周りの環境に左右されないということである。それでこそ，平安を得ることができる。そして，宗教を本当に理解して欲しい。形として目に見える成果はない。殆どが精神的側面のものであり，頭陀をしながら民衆に説明している。タイ人にあった慣習と祭祀を説明する。タイ人にとって仏教はなくてはならないものであるから。
10）開発方法：頭陀行はたいてい 4 － 6 月の夏季になされる。所を変え，法の実践をするものに益を与える。なぜなら，我々は慢心しやすいので，常に自分を保ち，意識を強めなければならない。瞑想は精神を強め，体に煩わされなくなる。他人のために自分の身を律する原則を守れば，他の人もよく分かるようになる。信仰すれば，よりわかりやすくなり，法のことを説明しやすくなる。
11）開発と仏法：身を律する。意識を強める。慢心しない。足ることを知る。
12）開発の障害：人々は悪癖にふけるものが多い。西欧式の身の丈を越えた生活環境が生じており，道徳的ではない物質主義の類に取り込まれている。これは，人々が道徳を学ぶ時間がないことが原因である。
13）支援団体：在家の人々が訪れ，法を学んで自らの行為をただし，益を得る人々がかなりいる。
14）将来計画：仏教を愛する人々を援助していくこと。

10　Pra Pisan Yanvuto

僧団長としての郡に対する役割をそのままに果たしている。行政，サンガとの連携も密。開発の指導者というよりも，後援者。但し，寺院内に託児施設を設けるなど積極的であり，そこに予算をつけさせるなどの政治手腕もある。地域での名望僧の一人。将来の県僧団長という在家もいる。

1）出身地：Mahasarakham，Amper Kaedam，Tambon Wangseang
2）Mahasarakham，Amper Kaedam，Tambon Wangsaeng，Wat Burapanongbua　マハーニカーイ派
3）年　齢：46 歳
4）安居年：26 年
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Amper Kaedam 僧団長
8）開発開始年：1988 年
9）履　歴：最初はあまり宗教に関心はなかったが，両親が 1 週間ほど出家してくれと頼むので，出家し勉強しているうちに寺を改善していくことになった。1980 年に仏教学 1 級をとる。1982 年，中学 3 年卒業相当の資格を得る。同年，Amper　Kaedam，Wat Ketburidonggo 住職。同年，Tambon Kaedam 副僧団長。1984 年 Tambon Kaedam 僧団長代行。1985 年 Tambon Kaedam 僧団長。1988 年，Amper Kaedam 僧団長。
10）開発事業：最初は特別な責務はなかったが，1982 年 Amper Kaedam 分郡の村から区までの僧侶，メーチー，プラームの実践を指導する役目に任命された。昔は寺の敷地内に

学校があったので，僧侶は行政と協力して学校建築の資金を探さなければならなかった。そして，診療所のために 4 ライの敷地を得た。（既に建築済み）活動の中心は村，学校，区での道徳研修である。区内 50 の寺では，悪癖禁止の掲示，寺を静粛に保つために境内に映画，劇などの立ち入りを禁止している。

民衆への支援としては教育。病気のものがおれば，薬を持っていき，寂しがらせない。5 年間の教育方面の事業として，5 万バーツを学校外教育に提供する。また，各学校の教師のために 3 千バーツを寄付する。Kaedam 内の各学校はこれ以外に，道徳教育のための寄付もされている。これらの金は信仰の篤い人，僧，行政から出されており，1987 年から現在までこれらの事業が継続されており，生徒や教師を多方面から支援する責任がある。

民衆との関係でいえば，衛生，環境に関して定期的に地域のリーダーと相談している。民衆に自然保護を理解してもらうため，Kaedam 内 17 カ所の森 2 千ライ以上を僧侶が守る森としている。その森の中で法の実践を行い，伐採を禁止する。Kaedam 地域内の 3 カ所，メーチー，プラームが修行できる寺がある。Wat　Chombunbuapra 森の寺，Wat Chatanmada 森の寺，Wat Dongtak である。森林が伐採され減少するのを防ぐ。

開発協力に関して，Kalasin・Khonkaen の開発僧と共に，Mahasarakham 教育大学で研修を行い，開発方法等の交流を行った。この際，Surin の Pra Pipitprachanak（ナーン和尚）を呼んだ。開発は物質的側面で終わるものではなく，個人と精神的側面の開発が法によってなされ，後に物質的側面に移る。ナーン和尚の開発計画についての考えは，民衆に対して真摯に対応しているので成果が上がるのであろう。

様々な事業において，師は自分の資金（出家前に商売をやり当時で 2 万バーツの金があった）や喜捨してくれる人の資金で行っている。この寺は 1991 年に行政から 10 万バーツの資金を受け取り，師が自身で布薩堂，庫裡を建設された。

師は大学での講演や，インド，スリランカ，ラーオ，ビルマへ自身の資金や外国からの資金の提供などで各地の視察を行い，貴重な経験を得ている。

就学前児童託児所は Amper Kaedam 内に 4 カ所あり，Wat DaoDon，Wat Raochan，Wat Raojarun，Wat Nakun。これらは各寺の支援の下に行われている。保母は月 3 千バーツの月給を受け取り，寺は運営維持費を支援している。保護者は保育料を払う必要はなく，この事業は父母達に働く時間を与え，経済的支援にもなったことから成功したと言えよう。宗教委員会も資金を提供しており，これは師の提案によって決定されたことである。それで最初の年から予算を得た。就学前児童保育施設の運営を始めてから 1 年して，行政が認可し，予算措置をとるようになった。

薬草に関しては，師が境内内に植えてはいるが，自分で薬草を作ったことはない。病院を支援している。

11）開発方法：村人の経済的問題を解決するために，事業基金を設置するべく，各村から基金を募るが，今ではあまり芳しくない。村人はそれをやる時間がないことを引き合いに出す。それで僧侶が村人達と団結してこの事業をやってくれるように説得して回らなければならない。たいした金額でなければ，あるところでは基金に協力してくれる。この事業をやりたいというのは今よりも社会を豊かにしたいという願いがあるからである。数カ

所に若干の資金を配分しているが，目立った結果は出ていない。

この地域の経済状態はかなり悪く，いい仕事のないものは子供をよそに働きに出さなければならない。現在，紡績関連の工場ができて，出稼ぎの問題が若干解消された。しかし，出費を抑えるべく節約することを促進しなければならない。この近辺は農民が主で他の産業がない。協同組合の店舗や米銀行，牛銀行などはない。

12）開発と仏法：仏教の教育では，僧や年長者が教え導く。様々な開発を行うにあたって，自分を犠牲にすること，信仰を持つことが重要である。

13）支援団体：なし

14）将来計画：職業面での開発事業を探る。

### 11　Pra Boonchu Tantisaro

開発というより，聖水による祓い，病気直しで有名である。日曜日には新車に交通事故を避ける祈願を込めてもらう人が集まる。

1）出身地：Mahasakham，Amper Meuang，Ban Poronongka

2）寺　院：Kalasin，Amper Phochai，Tambon Nongsira，Ban Sawang，Wat Sawang
マハーニカーイ派

3）年　齢：87 歳

4）安居年：14 年

5）学　歴：なし

6）僧学歴：なし

7）寺院内地位：住職

8）開発開始年：1983 年

9）履　歴：Ban Poronongka に生まれた。私が子供の頃は 12 頭もの水牛の世話で学校に行くことがなかった。この頃は名字さえなかった。村長すら名字がなく，村の支配者のみ名字を持っていた。結婚して，Ban Sawang に家族を持ったが，婆さんに死なれたので出家を決心した。

10）開発事業：僧房，庫裡，塀，門，鐘楼の建設。クメール式の火葬台の建設。学校へは未だ教育資金を提供していない。年中行事の祭りなど村人に協力している。
村人に朝晩寺に来るように指導している。在家で戒を守るために寺に来るものは 20 名ほど。寺に来ているものは計 70 名ほどになろうか。

11）開発方法：説教だけではダメ。しかし，信者に対して僧は説法のお返しをするのである。（布施に対して）聖水で病人を癒す。綿を紡ぐ。薬草を使ったことがあるが，自分で栽培はしていない。

12）支援団体：村民と Bangkok で働いている自分の子や孫

13）将来計画：塀が完全に出来上がっていないので，寺の回りに張り巡らせたい。

### 12　Pra Phen Sopano（Pattanakarnvichit）

1）出身地：Kalasin，Amper Yangtalat，Tambon Kaopranon，Ban Nagleua

2）寺　院：Kalasin，Amper Somdet，Wat Vitra-ongsawang　タンマユット派

3）年　齢：46 歳
4）安居年：24 年
5）学　歴：小学 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Amper Somdet 僧団長
8）開発開始年：1982 年
9）履　歴：沙彌になったことはない。小学校卒業後，貧しかったので出面，苦力金になる仕事は何でもやった。出家する年になったので，1974 年この寺で出家し，仏法を学ぶ。2 年目に遊行，クーン和尚と共に止観行，布教して村々を歩いた。多くの土地で村人が困窮しているのを見た。Sakhonnakhon，Amper Pohnnagaew に頭陀をした年，凶悪なコミュニスト（共産ゲリラ）の首謀者たちがいたところで，7 人の僧で行ったがそのうち 2 名が殺害された。なぜなら，この 2 人が兵士でちょうど出家しているところだという役所の文書を持参していたからである。9 年目（1983 年）に師僧の階を得た。和尚はあまり位が好きではない。和尚の師はグライ師であり，この Amper Somdet の寺にいた。ファン和尚に出会ってからは，グライ師に一日一食の許可を得た。（1974）翌年に師は盆に食事を盛ったが，鉢に入れてくれるように頼んだ。1976 年，グライ師が病み，副住職となった。1980 年，師死去。翌年，葬儀。
10）開発事業：1982 年に庫裡を新築。これより，寺の開発を始める。師は民衆を愛した。民衆の生活が寺の僧侶の生活よりも悪いことに気づいた。それで，様々な領域で民衆を助けていこうと考えた。全てのことで開発を行おうと目標をたてた。そのような折，国王陛下がお出で遊ばし，高貴なものを下賜された。それは，国王がパタナー「開発」の法名を与えるということをお命じになった。
11）開発方法：全ての人に愛し合い，団結し合うようにいう。共有すること。国家，宗教，王を敬うこと。村の政治が平穏であれば，村人は平穏無事に一緒に暮らすことができる。村の委員会を立ちあげ，計画を推し進めた後，使用する土地に所有権を付けるために土地管理局に手続きを行う。寄進された土地の利用法。
12）開発と仏法：僧が持つべき役割，義務とは，説法の中で仏法，道徳を教え，人を導くことである。和尚の考えでは，国の法と道徳が重なり合っていかなければいけない。開発については，精神的な発展（開発）の方が物質的経済面の開発よりも重要である。何事にも成功を収めるには，まず心を富ませることが肝心である。心が貧しいと，何事も思い浮かばない。僧は民衆の中に入っていき，まだ知らないものには教え，知っているものにはより豊かになるよう教えていく必要がある。よく知っている僧の立場は，民衆に対して慈悲の心で接するということである。自分ができる限りのことをして，民衆にお返しをするのである。以下の 2 点を開発の要点と考える。1　全ての人に，戒を守ること，身体，言葉使い，心をまず改め，きちんとさせること。2　全ての人の心に団結心を芽生えさせること。
13）特　技：説法。唱うようなものも言葉だけのものも，形態，長さ自由自在にやれること。開発に関わる種々の方法，考え方は止観の瞑想中に湧き出てきたものであり，研修を受けたとか，誰々に習ったというようなものではない。止観こそ知恵の泉である。

14）開発の障害：村人の中には不満を持ち，仕事を手伝わないものがいる。それは，どうして僧侶が村人のために忙しく走り回っているのか，僧侶が活動を寺の中だけに留めておかないのか，分からないからである。しかし，和尚はくじけることなく「人生とは戦いであり，敵とは強壮剤である（敵があってこそ戦う楽しみがあろうというもの）」と語る。
15）支援団体：なし。開発事業に関わる村の開発委員会を除けば，いかなる団体とも関係がない。
16）将来計画：1　学齢前の子供たちを預かり，仏の教えと日常的なことを教えるセンターの設置。2　外国輸出向けの縫製工場を建て，村人の収入の補塡とする。3　農業用水と水力発電ができるような貯水池（ダム）の建設。この件は総理大臣の事務所に文書として上げたものだが，まだ返事を得ていない。これによって，Amper Somdet の農民の生活が良くなる。Ban Kohksai から Somdet 市街地まで 20 キロの距離があるが，毎年一回しか米を作れない。村人が水稲を 2 回作り，収入を増やせるようにしてやりたい。4　僧侶のための病院を作る財団を作ること。

13　Pra siri Yanawuttho

1）出身地：Yasothon, Amper Khamkhuankaeo, Tambon Songpeuay, Ban Songpeuay
2）寺　院：Yasothon，Amper Khamkhuankaeo Tambon Songpeuay，Ban Songpeuay，Wat Siriratchpattana　タンマユット派
3）年　齢：77 歳
4）安居年：35 年
5）学　歴：不明
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：1991 年に Tambon Pohntan 僧団長を経験
8）開発開始年：1975 年
9）履　歴：師は Nakhonratchsima 県で 40 歳頃に出家し，1，2 年安居を過ごした。それから，長らく南タイ，中部タイ，北タイで頭陀行を楽しんだ。Bangkok では 11 年間学んだが，故郷が恋しくなり，戻って修勤した。ここにずっといようとは思わなかったが，村人が招請したために居ざるを得なくなった。かつて，この辺は深い森であった。ここで長居をしていると，村人の困窮ぶりが分かってきて，ここの困難を解決しようと決心した。この寺は 1975 年に開基され，現在安居期間 7 人の出家者と Meuang thoi 丘副寺院に 2 人の僧がいる。
10）開発事業：師は，地方の人々が，自分たちを助ける近代的な技術を持たず，迷信的なことに縛られているのを見て，まずそれを捨てさせ，先進国からの知識を得させることが肝心と考えた。交通手段のみならず，通信もままならない状態であったことから，地方の人々は日常生活を遂行するための近代的な知識を持たない状態におかれたのである。これまでやってきた開発事業でも未だ効果が出ていないこともあり，夕食にことかく村人がいることも事実である。あまりに豊かさとかけ離れているために，投げやりな生活を営んでいるものもいる。不便な道を直したり，日常的な生計を立てる手段として農業の自然に適った暮らしをしていくだけであり，経済面，産業を興すようなことはあまり考えてい

ない。具体的な目標として，1）地域開発は，農業，道路，衛生，通信面に重点，2）日常生活を助ける近代的知識を得る，3）近代的な知識人により教育を行い，品行をよくし，村人を視野の広い，思慮深い，行動的な人間にしたい。成功した事業　1）風俗習慣と宗教，哲学，教理の類　2）言語と文学，3）美術，文化，考古的学，4）生活と知識，器械の使用，衛生観念，生活の知恵等を教育，研修する等であった。

11）開発方法：事業は行政か，その分野の専門家に尋ね，実現の可能性を探る。仮に予測しない事態が生じても，これらの人々が自分たちの事業内容を保証してくれる。というのは，開発事業を始めたばかりの時は，悪党の集団やコミュニストの一味ではないかと疑われた。この時期は僧もコミュニストではないかと嫌疑をかけられ警察に捕まったことが多い時であった。行政に連絡した後も，始終村人に会いに行き，調整しなければならない。どのようにしたら成果が出るのか，どのようにした結果失敗したり，問題になったのかの話を聞いて理解してもらう。仮に，村人が和尚の話を理解してくれなかったり，協力してくれない場合は，こうした人に今後予め話をするのはやめる。そして，誰が敬意と謙譲の心を持っているかを見定め，その人のところへ行く。こんな種類の人に感化することができれば，今度はその人を頼む。話しても分からない人を相手にするのは無駄であり，こうしたやり方をする方が実り多い。

和尚の事業は殆ど自分で考えついたものであり，情報はそれに通じた人から助言を受けており，彼等に相談しようと待ちかまえているのである。どのような事業でも始める前は，質問する。計画が浮かんだときは，実現可能な具体的なものになっている。

12）開発と仏法：和尚はこうした開発事業に対して何の見返りも期待しないし，やったことだけで嬉しく思っている。本物の出家者は自己犠牲だけである。

### 14　Pra Prapit Jitawanno（Pinitprachanat）

タンマユット派県僧団長の秘書的な仕事を行っている有能な僧。将来，この地区ではそれなりの出世階段を登りつめる可能性あり。話に英語も混じり，渉外役にうってつけであろう。

1）出身地：Kalasin，Amper Meuang
2）寺　院：Kalasin，Amper Meuang，Tambon Kalasin，Wat Prachaniyom　タンマユット派
3）年　齢：36 歳
4）安居年：14 年
5）学　歴：職業高校（農業）
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Tambon Kalasin 区僧団長
8）開発開始年：1991 年
9）履　歴：Kalasin 県市内に生まれる。父は公務員であった。両親が亡くなったので，慣習に従って，22 歳の時に出家した。しかし，出家している内に精神的に惹かれるものがあり，このまま続けようと決心した。そして，Wat Prathomwanaram にて安居を過ごし，最近アメリカのタイ寺院に 2 年ほどいてきた。アメリカには 28 のタンマユット派の

寺院と 40 のマハーニカイの寺がある。

10）開発事業：最も責任として重いのが，区僧団長の役割であり，統括地域内の寺院の管理，僧侶の行状などを統制し，業務を指導することである。社会福祉的なものとしては，警察と協力して，麻薬防止の研修により，若者を麻薬のわなから救う。今年が最初である。母の日の行事。病院に Bangkok とベッドを寄付。

Karasin の商業高校に教育資金を寄付。30 人ほどの中学 1 年相当男子生徒を寺に寄宿させている。Amper Nongkhungsri，Amper Kammuang など辺地から来た生徒である。生徒たちは経費を一切負担しなくてよい。彼等の義務としては寺院内で規律正しく生活することである。月・水・金の研修に参加すること。どのような子供たちを寄宿させるかに関して規則はないが，両親が連れてきたものを入れている。

村人が相談に来たら，聞いてやり，意見を交換する。

11）開発方法：開発資金を募金して回る。宗教局が若干の補助をしてくれるが，どの程度になるのか来てみないことには分からない。殆どの予算は寄付から得ている。

12）開発と仏法：自立できるよう導く。まず，自分が身をもって示す。それから安詳を教え，精神的安らぎと正しい行いに教えていく。

13）特　技：古仏や骨董の収拾・管理。若干の鑑定もできる。

14）開発の障害：私自身の年が若いことである。タイでは年長者が敬われるので，発言力の重みにかける。それ以外は問題ない。

15）支援団体：仏教協会。県教育委員会。県。ボランティア等。

16）将来計画：木を植えて，公園のような境内にしたいものである。

### 15　Pra Banget Ariyo

タンマユット派頭陀行僧の伝統に連なる僧侶は，年が若くてもそれなりの風格と思慮を感じるものである。自然の中に仏法を見るという発想と，その自然が失われつつあることとタイ国のモラルの変化を連動させて考えている。森を守るということと道徳心の復興がこの僧の場合重なり，一つの森林僧の典型を示している。

1）出身地：Sakhonnakhon，Amper Kusuman，Tambon Thongkhop，Ban Namon

2）寺　院：Kalasin，Amper Meuang，Tambon Lampao，Ban Ampawan，Wat Ampawanmuangnoi タンマユット派

3）年　齢：33 歳

4）安居年：13 年

5）学　歴：職業高校（電気）

6）僧学歴：仏教学 1 級

7）寺院内地位：住職

8）開発開始年：1993 年

9）履　歴：農家の長男に生まれた。姉と妹がいる。21 歳で出家した。子供の頃に寺に行っていたので，行をしている内に帰依する心が起き，出家しようと思ったのである。学校卒業と同時に慣習に従い，出家した。Noknimit 森の寺で安居を過ごし，6 年いた。この寺はマン老師がいた由緒ある寺であり，止観の修行をした。その後，Nakhonphanom，

Amper Daanluang 近辺の山沿い，Phupaan 山地付近，Chiangmai 県の Amper Faang 等を頭陀行して回った。自然の重要さを認識した。なぜなら，自然とは法（タンマ）であり，法を行ずるところは自然の中にある。多くの人に自然に対する関心を高めてもらいたい。

10）開発事業：寺には 6 人の僧と 2 人のプラームがいる。具体的には，1　小中学校の生徒に道徳の研修を施す。これらは学校や県の教育委員会の招きで行っているものであり，県の高等教育課に設けられた教育施設で行う。県内 32 カ所の学校を 2540 年に回った。学校ごとに 500 から 1000 人の生徒がおり，計 15000 人の子供たちに法を説いた。祈りに集中すること，最初は僧侶がリードして心を静めることから瞑想を教えていく。2　植林の支援。自然保護。3　森の中の動物保護。寺の境内付近の森には 200 羽からの野鶏（雉科）がいる。動物と環境のふさわしいバランスをとるために，保護しなければならない。4　薬草の栽培。しかし，それらの管理を自分だけでやるのは大変である。5　寺を発展させる。6　村人に法を説く。境内で娯楽を禁じる。

11）開発方法：寺の年中行事や記念日などに重要な法の話をきちんと行う。このような折り，村人は寺の様子を観察していく。寺が清潔を重んじれば，村人は自分の家同様に，家の清掃の後，寺に戻り清掃を行う。こうしたことは，まさに自然なことであり，あえて言葉で教える必要はない。

12）開発と仏法：法というのは，道徳と霊性が一体となったものでなければならない。誠実で，真摯であることが，平常心の中に道徳を保っているということである。僧侶の社会的役割として考えられるのは，第一に，心，道徳面の事柄であり，地域の指導者たるべきである。第二に，僧は知識と信仰を同時に持っていなければならない。美術と慣習を守るべき。もし，現世のことだけを中心に考えれば，この世は急速に悪くなる。そこで，法を保持し，説いていくことに意味が出てくる。

13）特　技：電気工事と建築。庫裡と講堂は自分が指揮して建てた。

14）開発の障害：開発の資金に関してはあまり問題ない。村人の信仰心のおかげで，寄付してくれる。

15）支援団体：Karasin 県 Lampao 自立村（内務省公共福祉局），Kalasin 県営林署，キリスト教子供財団。この財団は東北タイ各地で事業を行っている。村人が多方面で援助してくれる。母の日には植樹し，村，学校，寺の発展に力を合わせる活動を行う。

16）将来計画：現在の活動を継続していきたい。僧侶のことに関しては，これから新米僧侶に対する研修を県レベルや，王国レベルで行い，仏法の規律を高め，行いや止観行を正しくしていけばいいのではないかと考えている。東北タイでは，このような研修が大規模になされることが少ないので，提案している。

### 16　Pra Mahaavuttho Chitpano

タンマユット派の学僧という雰囲気である。話の簡潔さは小学校卒というのが全く信じられないほどで，仏教学の学習と止観行の成果かと思われる。頭の中に階層的に知識が整理されて，話自体も要点の整理がなされており，そのまま聞き取ったことがインタビューの要約をなすほどである。

1）出身地：Khonkaen，Amper Chonabot，Tambon Chonabot，Ban Takhoi
2）寺　院：Kalasin，Amper Nongkungsi，Tambon Nongsuang，Wat Nongsuang　タンマユット派
3）年　齢：32 歳
4）安居年：11 年
5）学　歴：小学 4 年（中 3 修了資格あり）
6）僧学歴：仏教学 1 級，パリエン 4 段
7）寺院内地位：住職，日曜学校管理者　　僧団内地位：Kalasin 三蔵学僧（パーリ），Kalasin 県僧団委員，Amper Nongsuree 僧団長
8）開発開始年：1992 年
9）履　歴：Amper Chonabot の農家，3 人兄弟に生まれた。13 歳の時より，8 年間沙彌をやり，その間にパリエン 4 段を取得した。その後，出家して，Paniya Surikul 老師に止観を 2 年間師事した。この間仏教学 1 級を取る。そして，1 年間 Chiangrai 県で止観の修行をなし，帰ってくるまでにサンガの新しい学習を身につけてきた。
10）開発事業：1　管理業務　郡僧団長として管内 18 の寺院を管理，戒律に従って規律正しく指導する。寺院内のことだけでなく，環境にも配慮するようにいい，寺院はどのくらい人々に安寧を与えているのか，すなわち，幸福感を与えているのかを諭す。これらは寺を教えの場にしていこうという試みである。
　2　教育業務　Kalasin 県各寺院に関わるサンガ内教育の管理運営。沙彌への教育。4 つの学校で 876 人の子供に仏教学 1 級から 3 級の間の事柄を教え，寺内の学校では小学校 5 年から中学 4 年の子供たち 263 人に仏教を教える。こうして教えるのは，将来子供たちが仏法を理解し，日常生活で役に立てることが出来るよう指導するためである。もし，問題が発生したならば，それを解決するために仏法を参照し，家族で戒を守ることが出来る。最近，子供たちは仏法を学ぶ機会がないので，布施，受戒の懇請，説法の懇請，吉兆・凶兆の時行われる仏教儀礼などを教えなければならない。
　3　民衆各層への布教　僧侶達に村へ行って村ごとの問題がどのような状況であるか知るために，布教に行きなさいと勧めている。正しいこと，問題の解決法等を教える。それぞれの分（状況）に応じた生活をするよう民衆に教える。仏日には，村人を伴って止観の行のため，森にはいる。五陰（色・受・想・行・識）を認識するに至るものや自分を知り，平安を得るものがいる。自然に反することをする故に，難儀が生じる。
　4　寺内の公共的建築　昔から言われてきたように，仏教の法に沿って行えば，幸せになるということを信じさせる。信仰に導くために，僧としての行いを正しくする。
11）開発方法：念，意識を持つものに導く。自然界に起こっていることを教えることで，それに逆らわず行うことを諭す。しかし，自然を意識的に生じさせようとするのであれば，それは消し去らなければならない。自然でなければ，幸せではない。
12）特　技：学問が一番であろう。子供の頃，学問を志すという大望を持ったが，家が貧しかったので，教師になるために学校にはいることが出来なかった。それで，出家することで満足し，ひたすら学問をした。どんな困難な状況であっても，自分のやる気で切り開いていける。それで，他のものにも機会を与え，手助けしてやりたいと考えている。

自分の身を養っていけるようになればよく，そのことで彼等から恩返しをしてもらおうとは思わない。

13）開発の障害：村人は僧侶が教える法をあまりよく理解していない。これは彼等が本当の信仰を持っていないからである。いろんなうわさ話しでも，村人は無邪気に信じるものである。まだ誰も証明していないこと，証拠のないことが本当なものかどうか。ただ法を受け取っているだけで，正しい行為を受け入れようとしない。

14）支援団体：寺の財団。村の指導者，村人達。

15）将来計画：教育，研修その他の機会に役立てられるように，境内に学校を建てたい。成果が期待できる。

17　Pra Hah Asoko

寺の作りは全く普通の村の寺であるが，住職が薬草を用いた治療を行うことで有名である。薬草に関する知識，治療方法に詳しく，詳細は聞き取れない部分が多かった。

1）出身地：Nakhonphanom，Amper　Raynunakhon，Tambon　PohnThong，Ban Donmak-eak

2）寺　院：Nakhonphanom 県，Amper　Raynunakhon，Tambon　Nongyangchin，Bannnongyangchin　マハーニカーイ派

3）年　齢：48 歳

4）安居年：24

5）学　歴：高等学校修了

6）僧学歴：仏教学 1 級

7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Tambon Pohnthong の僧団長を経験したが，勇退している。

8）開発開始年：1987 年

9）履　歴：かつて，金商人をやり村々を歩いていたが，金の価格が暴落して，出家した。金の価格が上昇してくると還俗したかったが，すぐできなかった。雨安居を過ぎてから還俗しようとしたが，ちょうど価格が下がり，これは還俗できないということだと思い，以来僧侶をやってきた。出家している間，頭陀行に 4 年間 Phayao，Maehongson，Tak，Phrae の各県を歩き，Malasia にも行ったことがある。これらは安居明け，行事が終わってから出ていった。夜を過ごす（違反僧が限定された場所に居させられること）風の行為を毎年やった。現在も頭陀に歩く。

頭陀行の際，多くの僧と話し，見聞を広め，薬草に関する知識を得た。薬草に関心を持ち，1 年間勉強し，自分で育ててもみて，Saraburi，Prachinburi 県に視察に行ったこともある。Nakhonpathom 県保健局の医師による講習会に参加したりした。境内に薬草を植えて，標識をたてた。足を薬草で蒸すやり方をやっている。

10）開発事業：寺院内　僧 10 名，沙彌 2 名。具体的には，以下の通り。

1　建築等。寺院内に庫裡，僧堂，これらの建築は乾季か田植え以外の時に行う。沙彌には私が建築の仕方を職業教育として教える。これらは沙彌が還俗したときに役に立つ。これ以外には電気工事等の知識もある。

2　教育。かつては境内に子供たちの託児施設があった。しかし，現在は寺院の隣りに移った。60 人以上の子供が登録している。しかし，実際来ているのは 40 人くらいで，3 人の保母を月 3000 バーツで雇い，この予算は宗教局と寺の持ち出しである。

3　寺建設。もう一箇所に新しい寺を建設している。そこには 7 人の僧と 12 人の沙彌がいる。

4　病院。薬草の種子を植え，薬を作る。足の薬草蒸等，薬草を使った病院がある。私はこの方面で実績がある。特に，喘息にはこのやり方がよく効く。或いは刻んだ薬草(巻いてシガー状にしたもの）やホマメノキと石灰を水で練り合わせたものを首に巻くなど。その後，これらを灰の反対側の背中に塗り重ねる。これを肩から布でしばっておく。乾かないように時たま水をかけておく。薬は皮膚から吸収されていく。患者は何度か吐き気をもよおす。皮膚の毛が黄色になってきたらはずしてよい。直に吐き気が止むが，体中疲れているので安静にしておく。病院で出す生理食塩水や塩水を飲んでも良い。最初の段階では 3 回くらい，1 時間ずつやればよい。しかし，殆ど 1 回目で効果がある。

治ることを願うものには，水碗に 1.5 バート（6 サルン）と白い花を入れて呪文（祭文)を唱え，礼拝する。三度息を吹きかける。これで儀式は終わり。この儀式によって，喘息は全快する。

11）開発方法：開発の資金は殆ど，ガチン祭，パーパー祭からのものである。または篤信者，宗教局など。開発は関心を持つものと僧侶が協力して行う。僧が村人と働いているのを見て黙っておれないものは，信仰が生まれたものであり，言わずとも協力してくれる。

12）開発と仏法：村が一致協力するように，仏法を基礎に用いる。

13）特　技：電気工事，左官，鍛冶等。

14）開発の障害：あまりない。仕事が大変であれば，村人の応援を頼めるし，50 人からの村人が来てくれる。左官などの仕事では 100 人が来る。

15）支援団体：村人。篤信者。宗教局。ボランティア。役人。新しい事業の場合特に。

16）将来計画：寺と村に図書館を作りたい。庫裡が狭くなったのでもう一棟建てる。

### 18　Pra Sing Dhampiro

郡の僧侶であるが，県都市街地から来る信者も多く，人望のある僧侶である。治療なども含む様々な相談にのる。寺には布薩堂がないために，同じ村にある隣の寺の布薩堂を借りて出家式を行う。この村はソー民族の村であるが，外見はもとより日常生活レベルにおいてもラーオの人達（タイ国民）と差異はほとんどなくなった。

1）出身地：Chonburi 県

2）寺　院：Mahasarakham，Amper Kanthawichai，Tambon Srisuk，Ban Srisuk　マハーニカーイ派

3）年　齢：70 歳

4）安居年：50 年

5）学　歴：小学校 4 年

6）僧学歴：仏教学 1 級，パリエン 3 段

7）寺院内地位：住職

8）開発開始年：1986 年
9）履　歴：不明（語らず）
10）開発事業：1　交通事故者の治療。骨折。薬草と霊験あらたかな呪文による。
2　精神的治療。ブッダの加護を願う呪文により，患者を癒す。
3　精神的な面での社会貢献。仏教の布教。運勢を変えるための犠牲的な儀式を行う。
4　公共的な建設。村内の道路。Ban Srisuk と Ban Paak，Ban Nadee 間の道路。
5　教育資金と児童の給食資金の提供。
6　寺院内の沙彌のためにパーリ語の学校を開設。
7　寺内の僧堂，火葬台，庫裡等の建設。これらは村の指導者の事業。
治療者としての僧の名声を聞いて，各地から人が集まる。信者は多い。
11）開発方法：予算は，タンブン，布施，パーパー，ガチン祭。或いは，病気治療の礼金を充てる。
12）開発と仏法：開発は，村人を誘って，協力してもらう。仏法，村人の信仰が開発を助ける手段である。地域の政治家に必要なもの，予算，その他利便性のあるものを要求する。国内の発展は非常に早いが，人々の心は発展というものを理解していないために，モノの奴隷になっている。生活が良くなるほど，人心が荒廃する。村のインフラは大分整備されてきた。道路も良くなった。しかし，人の心は卑賤になる。車を持つことで人に見せびらかし，昔ほど人を助けたりする寛大さがなくなった。貧しいものにとっては，開発とは道路を切ること，美しいものを建てること，十分な収入を得ることであり，戒，仏法などはどうでもよくなっている。師の提言としては，1　国家の発展のためには，人が法を持たなければならない。仏法を護持すれば人間は成長する。人が苦しんでいるときには社会にも難事が生じる。2　村人に仏法を知ってもらいたい。また，昔のように寺に聴聞にきてほしい。なぜなら，現在，寺に仏法を聞きに来るものは非常に少ないからである。もし，民衆が仏法に関心を持てば，慈悲喜捨の心が生まれる。3　仏法を学び，寺に来ることで，人は心を成長させなければならない。

### 19　Pra Pathom Warakit

マハーニカーイ派の森の寺であるが，実際はボラブー市街地になっている。住職はサイヤサート（呪術）を用いた治療で有名であり，境内では住職が信者に呪文を唱えてから，薬草等を与え，水を被らせる場面が遠くから見えたが，インタビューには応じてもらえず，秘書役の僧から間接的に聞き取りを行うことになった。

1）出身地：Mahasarakham，Amper Borabu，Tambon Dongua，Ban Dongua
2）寺　院：Mahasarakham，Amper Burabu クワンムアンラブータム寺　マハーニカーイ派
3）年　齢：66 歳
4）安居年：46 年
5）学　歴：不明
6）僧学歴パリエン 4 段
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：ボラブー郡僧団長

8）開発開始年：1973 年
9）履　歴：Ban Dongua において 14 歳で沙彌になり，Ubonratchathani，Khonkaen，Bangkok などで勉強し，特に精神病医療に関する書物を学んだ。1973 年，ボラブーのこの土地でボラブー森の寺を作った。これは現在の寺の境内にある。初代の住職である。現在 7 名の僧と，33 の沙彌がいる。三蔵と普通教育を受けに地方から出家して集まってきた。
10）開発事業：1　Amper Burabu の僧団長として規定された仕事を行い，6 つの郡をまとめて会議を行う。
2　布教面では，説法僧，開発僧，監督者としての役割。
3　寺内部の建設。
4　村の開発。村から要請があったところで，井戸掘り，道路を切るなど。
5　教育資金，給食の提供。
6　貧しい階層の子供たちを沙彌として預かり，教育，一切の面倒を見る。
7　精神病者の治療。仏法と薬草を用いる。喉の痛み，つぼや腹部中央の痛み等。治療を求めてくる人は 1 日少なくて 40 人。
8　住職が作るリエン（小仏像）
9　ボラブー中学校，ボラブーウィタヤーカーン中学校などで，生徒に瞑想の指導。
10　仏日に寺で説法，土日に学校で説法を頼まれるなど。
主として，サイヤサートの霊験を求めて来る人たちで賑わっている。住職自身はインタビューに応じないで，秘書役の Kalaya Choutosopano 比丘より話を聞く。
11）開発方法：1　必要な物資を買う金を付加する。
2　知恵を貸し，成功させるよう相談に乗る。
3　仏法により精神病を治す。仏法を教える。止観を練習させる。まず，なぜこのような状態になったのか問診し，次いで住職が癒しを与える。治療に来るものは花とろうそくをお盆に乗せてこなければならない。
4　薬草による治療。薬草の事典などを研究の上，病気によっては薬草を練り込むマッサージを施す。痛む，だるい等の症状によく効く。
12）開発と仏法：仏法を説教し，病人を薬草により癒す。
13）特　技：説法。薬草治療。
14）開発の障害：ない。住職は常に薬草の新しい知識を仕入れて治療している。
15）支援団体：開発資金の一部は宗教局。信者のお布施。治療に関しては病院のように金を取らないが，殆どのものが，治療に要した水，電気代等の足しにとお金をおいていく。また，薬草は薬草研究センターにより試験済みのものであり，ここにおいてある。人々に分け与えるが，布施が上がる。
16）将来計画：人々を助けるために，薬草学を勉強する。

### 20　Pra Yot Yotchato

マハーニカーイ派県副僧団長という地位，スリブンルアン寺の歴史からして相応の開発を行っているという印象である。寺自体もパーリ語学校を併設しているだけに大きく，町の

寺である。住職は親しみやすい雰囲気で語り，調査者に「タイの仏教を理解するのであれば，是非一安居は出家してもらいたい」と助言してくれた。

1）出身地：Surin，Amper Chompra，Tambon Grahaat，Ban lekdee
2）寺　院：Mukdahan，Amper Mueang，Wat Suriboonluang　マハーニカーイ派
3）年　齢：66 歳
4）安居年：46 年
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Mukdahan 県副僧団長
8）開発開始年：1958 年
9）履　歴：1931 年に，農家に生まれる。20 歳の時に慣習に従い，Surin，Amper Chompra，Tambon Grahaat，Wat Prathomthong-grahaat にて出家した。戒和尚は Pra Athikarnthin Tamomutino，当番僧 Pra Gamawachaan であった。その寺で 3 安居を過ごし，お経を学び，護呪経の 7 節，10 節を暗記した。これに熟達すると，僧の戒・律について学んだ。受戒したときの後援者に恩があるため，1954 年までそこにいた。それから，この Wat Suriboonluang に仏教学を勉強するために移った。決心して，Wat Pratatpanom で安居を過ごしたこともある。しかし，Wat Suriboonluang にて安居を過ごしているうちに，故郷の村に帰りたくなってきたが，住職から許可が出なかった。1955 年，副住職になる。1958 年に住職となり，今日に至る。
10）開発事業：村の家族の様子を見ていると大変であり，自分の父母をはじめ村人の難儀をずっと感じていた。出家後，家の仕事を手伝うために還俗しようとした。しかし，寺の住職に自分だけでは今後寺で安居を送っていけないからと頼まれ，還俗の機会を失ったが，この Wat Suriboonluang では自分の腕を振るえる機会があったので，それ以来いろんな事業を行っている。事業は，教育と福祉的なものに分けられ，そのための施設を建設した。
　1　布薩堂，僧堂，庫裡の建設。
　2　パーリ語の学校を敷設。
　3　橋や病院などの公共建築。
　4　Mukdahan，Amper Meuang，Tambon Nasohk，Amper Dondtan の Ban Pohnwaan と Ban Nawaa に米銀行を設立。豊作の時に村人に呼びかけ，米を寄付してもらう。不作の時はいつでも村人が不足分を出しても良いということにした。なお，借り出す際の利子は 3 タンを借りたら 1 タン分つけて返すという具合に非常に低くしてある。しかし，Ban Pohnwaan の米銀行は運営がまずく，潰れてしまった。
11）開発方法：何か建設する場合は，当初予算を超える費用がかかる。その時は建設を請け負った村から寄付を募る。中には篤信者が予算のかなりの部分を出してくれる。村によって，遅い早いの違いはある。村人にとって都合の良い時期は稲刈り後である。
12）開発と仏法：真摯であることが一番。何事も真剣にやる。きれいに，ていねいにやる。自信を持ちすぎてはいけない。信仰があれば，自然にできてくる。事業をする予算のない時もあるが，寄付を募れば，必ずできた。こうして，Mukdahan 県にある 40 以上もの寺

をいろんな形で支援できた。
13）特　技：骨接ぎなどを伝統的なやり方で治療できる。
14）開発の障害：殆どない。人々は事業の予算のこともよく分かっており，寄付を募ってくれる。僧の役割としてはコーディネートして見ているだけでよい。
15）支援団体：村人と篤信者。
16）将来計画：開発を少しずつやっていくだけ。

21　Pra Somshit Rakkhitsiro

タンマユット派森の寺の僧であるが，サイヤサートの霊力をもって知られており，40歳と若いが村人の崇敬が篤い。寺の諸施設を現在建築中であるが，その資金を十分に稼ぎ出す仕事量である。とにかく，師は忙しく，師の行くところ，法事の最中であれ，病気直しを求めて近郷から患者がつてでやって来る。インタビューはその合間をみて行ったくらいである。

1）出身地：Roi-et，Amper Selaphum，Tambon Tamuang，Ban Tamuang
2）寺　院：Roi-et，Amper Selaphum，Tambon Tamuang，Ban Tamuang，Wat Sartdaram 森の寺　タンマユット派
3）年　齢：40歳
4）安居年：20年
5）学　歴：小学校卒
6）僧学歴：仏教学1級
7）寺院内地位：住職　　僧団内地位：Tambon Kaaklaew 僧団長
8）開発開始年：1982年
9）履　歴：1957年，8人兄弟の2番目に長男として生まれ，小学校を卒業，1973年に沙彌として Wat Ratchvitsut にて出家，1977年 Wat Nongsiam にて Pra Wisetsaylakhun を戒和尚に比丘になる。1979年 Sakdaram 森の寺にて仏教学1級を取得。1977年より Wat Sawangtasri の Thongma Taoro 老師に呪文を習う。1982年に Sakdaram 森の寺住職。1986年ガゲーオ区僧団長，同年戒和尚の資格を得る。1990年に，師僧の位を得る。
10）開発事業：慈の心を持って，村人の貧しい生活を見ていた。中には悪徳，麻薬に染まるものもいた。それで，村人の生活をよくしたいと願った。具体的には，1　寺院内の建設。1980年，庫裡を建設。1983年，布薩堂の壁面を塗装・修復する。1986年，トイレ建設。1987年，仏塔と寺へはいる道路の建設。1987－96年，庫裡を4棟建設。1996年，仏像と Thongma Taoro 老師の遺骨を納める仏塔の建設。2　貧困者の救済。時には金をやることもある。3　学校に教育資金をあげる。
11）開発方法：和尚の特技と開発に関して
　1　占い。占いのテキストにのっとったもの。
　2　薬草医。Thongma・Taoro 老師から薬草による治療を習い，自身も境内に栽培している。
　3　呪医（モーピー）。精霊（ピー）の仕業によってけが・病気になったものの治療。村

人に迷惑をかけたり，人に取り付いてしまった霊を呪文や聖水にて追い払う。例えば，神霊たち，ピーポープ（人体に巣くい，貪り食べる霊）等。患者は他の地方から来る。なぜなら，この村の者たちは，こうした話をあまり信じないからである。また，仏法僧の教えの神髄を既に得ているからでもある。時には，他地域でピー退治をするために呼ばれることもある。1997 年 10 月 13 日には Nakhon Phathom 県の村から招かれ，ポープを退治することになっている。（これに関しては，タイラット 10 月 13 日月曜の記事になった。）

12）開発と仏法：5 戒を守る。
13）支援団体：信者と村人。
14）将来計画：寺内部の建築。古美術的価値を持つ品々を保管するための施設建築。警察のための番小屋を設置する。

### 22　Pra Pradit Chatigo

タンマユット森の寺の僧侶。別の寺を調査中に師に会い，参詣を進められる。話だけを聞けば，話題豊富な商人という感じであり，とにかく人を飽きさせない。商売人という出家前の来歴が師の事業計画やコンサルタント的な役割にうまくきいている。暖かみのある人物である。

1）Sakhonnakhon，Amper Swangdaendin
2）Roi-et，Amper Prochai，Tambon Akkakam，Ban Uaychai，Wat Prasopburiyaram
森の寺　タンマユット派
3）年　齢：44 歳
4）安居年：9 年
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：なし
7）寺院内地位：副住職
8）開発開始年：1994 年
9）履　歴：Sakhonnakhon，Amper Swangdaendin に農家の次男として生まれる。小学校を出てから農家の手伝いをやって，商人となり多くの土地を歩いた。息子と娘が 1 人ずつ。女房と離婚した後で，出家した。家族内の不和で考えるところがあった。僧は働くばかり，女房は金を使うだけで，何度言っても同じことを繰り返し，すっからかんになるまで賭博をやるに至った。その行動を直すことも出来なかったので，離婚した方がよいと思い，決心した。子供達はガラシン県におり，女房は再婚した。

Phichit，Amper Wangsaiphun カオ Noi 森の寺にて出家，Chanta Waoro 老師に止観を習い，Seang panyatro 老師に仏法を教わり，一安居の後，2534 年現在の寺に移った。

出家したのは，元の家族で夫と妻が協力できなかったので，2 週間ほど出家してみようかと思った。しかし，仏法を学んでみると心が落ちつき，心に完全な平安が訪れるまで僧でいようと決意した。このような問題を抱えた人々の癒しを手伝いたいと考えた。

10）開発事業：東北タイにおいて，仏法を教えないのであれば，薬草の知識を与え，職業的知識，例えば，どこでどの品物が生産され，どこの市場で高く売れるかとか，いつ市が立

つか等を教えて，人々を助けたいと考えた。もとより，自身を立て直し，社会で生きることを容易にするために何よりも必要なことは法を学ぶことである。寺院には僧 5 名，沙彌 2 名（住職は仏法の実践に重きを置き，開発は副住職にまかせる） 具体的な開発事業は以下の通り。

1　庫裡を 9 棟，僧堂を 2 棟，トイレを 2 棟。
2　2537 年に Uaisuree 中学校建設を支援。
3　中学生で金属溶接技術に興味あるものに研修させる。この方面が出来る僧が実習指導。
4　国王 50 歳の誕生を記念して，栄光を寿き，国王のご計画にもある植林を 100 ライ行う。
5　学校に国旗掲揚の柱を計 5 カ所に寄贈。
6　Amper Phochai 内の学校，郡の小学校教育課，公衆衛生課に Bangkok を寄贈。
7　腹痛，めまい，筋肉痛等に効く薬草を植え，村人にはただであげている。自分が在家の時に薬草を試したことがあったので，いろいろ混ぜ合わせたりして，提供している。マラリア予防の薬もある。他に，糖尿病，高血圧，コレステロールを下げることなどに効くものがある。甘いもの，苦いものあり，混ぜて使う。ツタのアルコール（苦い，ツヅラフジに似ている。）1 に対してナンキョウ 2 の割合。これをつけ込んで 1 週間もすれば，色が黄色になってくるので砂糖を加えて飲めるようにする。薬の性質により病の最初の段階で用いたり，食餌療法を併用したりする。
8　月に 4 回，仏日に説教。仏日が土日に当たると在家信者が百名を超すくらい集まる。祖霊外は 30 人ほど。Ban Uaisuree 以外に，Phoyai 村，アッカカム村等からもくる。
9　Ramkhamhaeng 大学，Thammasart 大学，各地の中学で説法。住職と出かけるときもあるが，殆ど師が単独で行く。
10　クワンルアン誌とロークティップ誌にシバ神とマン老師の話を 5 分程，生徒向けに話した。
11　地域の村人に商売のやり方を教える。こうした職業教育も経済開発になろうか。学習から得た知識，新聞の社会面で研究した事柄，瞑想と祈願に基づくものである。とりわけ，5，6 安居目の瞑想では，先見性が研ぎすまされ，今日は何人訪ねてくるか，或いは誰が来るのか分かるようになった。しかし，今では地域の俗事に関わることが多いため，祈願する方が多くなった。
12　学期休み中，子供たちは家で両親の手伝いをする。小学校 4 年から 6 年にもなれば，家の外で仕事を探すこともある。Bangkok の親戚を頼っていき，縫製工場やガソリンスタンドで働くものもいる。1 日 60 バーツほどの日当を求めて，男児の半分が Bangkok に行く。女児には土日に寺に集め，1 時間 10 バーツで雇った教師役の生徒に教えさせる。
13　農業に関して指導していることは，次の通りである。現在，米作りは経営規模が拡大している。しかし，5 ライの田で手をかければ十分暮らしていける。日照りの時はポンプで水をあげ，干害に備え，田の畦に，種蒔きの範囲を交互に循環させ，多くの作物を混合してつくる。こうすれば，年中収穫がある。

11）開発方法：1　念，精神統一，知恵と健康の強調。2　心を強く保つための修練。仕事にがんばり抜くこと。子供たちに文化に関心を持たせる。
12）開発の障害：様々な面で人間の無理解，経験の不足があげられよう。例えば，両親が子供を寺に入れたがるが，子供は入りたがらない。しかし，このような子供でも順に説いていけば，耳を傾けはじめ，理解するようになり，両親の言うことをきくようになるものである。
13）支援団体：村人。教師，会社。トムヤンティ等の作家。
14）将来計画：1　土日のマーケットを作りたい。外国の商品も扱うことで，中部タイの商人をここに呼び込む。夕方のマーケットも考えている。2　仏教関係，歴史的人物の伝記小説等書籍を集めた図書館・博物館を設置して，皆に開放する。

### 23　Pra Ma Nanwaro

タンマユット派森の寺の頭陀行僧として生きてきた師は語ることを好まない。「私は行をおこなうものであって，説法師でも作家でもないから，人に言うべきことは何もない。」こう言われてインタビュアーである調査者は進退窮まったが，タイ仏教を理解したいと懇願し，何とか重い口を開いてもらった次第。

1）出身地：Roi-et，Amper Selaphum，Tambon Nongkam，Ban NongKam
2）寺　院：Roi-et，Amper Selaphum，Samnaksong Tiwiwek　タンマユット派
3）年　齢：84 歳
4）安居年：64 歳
5）学　歴：小学校 3 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　僧団内地位：区僧団長，郡副僧団長
8）開発開始年：1977 年
9）履　歴：Ban Nongkam にて 5 人兄弟の 3 番目に生まれる。7 歳で沙彌になり，以来僧籍にある。師は仏法と止観をずっと実践してきた。社会，仏教に役立つような実践を行ってきた。
10）開発事業：この 20 年近く開発に関わることを行っている。
　1　精神面の開発。
　2　公共的事業として，学校，病院，保健所，井戸の建設。寺院内では説法所，布薩堂を建てた。現在進行中の計画としては，Selaphumvitayakhom 中学校の図書館の建築と Yasothon，Amper Kutchum に地方文化の博物館建設がある。

　国王の栄光を仰ぐと名付けられた図書館は，Bangkok の Satoriwitaya 女学校に次ぐ，タイで 2 番目の規模を持つ。瀟洒なタイ様式の鉄筋コンクリート 3 階建てで，1 階は図書館館長室，事務室，会議室，作業室からなる。2 階は開架閲覧室，3 階に師の記念室，王室の記念室，各種記念品の展示室からなる。3 階の資料は生徒も閲覧可能であるが，2 階にコピーしたものがおいてある。師が設計段階から助言した。

　資金集めその他は，在家の寺院管理の委員会が行い，僧は監視役である。村人にあまり，お金，労力の提供を求めない。なぜなら，師が強調するのは精神面の開発であり，

これが先行することでそれ以外の開発が可能になるからである。どの宗教が役に立つとかは問題ではない。どのような宗教であれ，人をよくすることに役立っている。

11）開発方法：今の経済状態に関して言えることはそう簡単ではない。現在，政府は民衆に節約を呼びかけているが，よしあしがある。皆，節約して何もしなければ，仕事はなくなる。この政策は無益だという話も聞いた。下層の人々は節約し，分に応じた生活をするであろう。借金を少しずつ返していくしかあるまい。中部タイの人と比べれば，東北タイ人は寛大な性格の持ち主が多い。少しずつでも分け合って暮らしていく。暮らしぶりはそれほど悪くならない。

12）開発と仏法：現在の人々は開発と仏法両面で欠けている部分が多い。それで，修養を説き，信仰が生まれる場を作る必要がある。僧がなす開発事業は，僧の名声のためではなく，社会のためであると皆に信じてもらう。実際，そのようにみな認識している。

13）開発の障害：地域の人々は条件が良かったり，規則に定められたり，報償が出るなどのことがなければ，心から協力するというレベルにまで至っていたい。例えば，村の開発事業なども，ビデオで写して後で上映会をやるとか，撮った写真をやるとかいうことであれば，手伝うような具合である。

14）支援団体：役人とか，地域の篤信者等。

15）将来計画：死ぬまで，開発の事業を継続していきたい。時間が惜しい。

### 24　Pra Srichan Punnato（Prathepbaddit）

寺院の大きさ，説法師としての名声（テープ多数），仏法の執筆家（著書多数）としての能力，風格等，タンマユット派第 10 管区副僧団長という地位もなるほどと思わせる僧侶であった。大学にも儀式や講演に招かれることも多く，世俗的には学長クラスの待遇であろう。立派の一言に尽きる。

1）出身地：Roi-et，Amper Chaturaphak，Tambon E-ngong，Bang Nongnon

2）寺　院：Roi-et，Amper Meuang，Wat Beungpraramchai　タンマユット派

3）年　齢：60 歳

4）安居年：40 年

5）学　歴：Buriram 教育大より名誉教育学士号

6）僧学歴：仏教学 1 級

7）寺院内地位：住職　僧団内地位：タンマユット第 10 管区副僧団長

8）開発開始年：1959 年

9）履　歴：1937 年 8 人兄弟の 5 番目に生まれる。14 歳で沙彌，20 歳で Wat Beungpraramchai にて出家。戒和尚に Khunsanpinit 師を頼む。

10）開発事業：精神が人間にとって最も大事なものである故，仏教の核心たる精神面の開発が主である。心の修養が出来ておれば幸福が得られる。これ以外に，寺院の管理，教育，布教，建設，福祉等の支援がある。

1　管理：1959 年 Wat Beungpraramchai 修復。1964 年 Roi-et 県市僧団長秘書。1966 年 Roi-et 県僧団長秘書。1967 年 Wat Beungpraramchai 副住職。1970 年 Roi-et 県市副僧団長。1973 年 Wat Beungpraramchai 住職。1973－1990 年，Roi-et 県僧団長。1991

年－現在，タンマユット第 10 管区副僧団長。

2　教育：1963 年 Wat Beungpraramchai パーリ語教師。1970 年 Roi-et 市仏教学責任者。1973 年 Roi-et 県仏教学責任者。Luangsittitammawitaya 校校長。1990 年より現在，タンマユット第 10 管区仏教学責任者。現在は，教育資金の提供を県内各地の学校に行う。

3　建設：Roi-et 管内の寺を 18 から 128 寺に増やした。Wat Beungpraramchai 寺院内，4 階建ての仏塔，費用 1 千万バーツ。寺院門と塀，5 百万バーツ。パーリ語学校，5 百万バーツ。説法堂，5 百万バーツ。庫裡，3 百万バーツ。3 階建て鐘楼，30 万バーツ。Charimrat 森の寺説法堂，百万バーツ。Wat Praputthabathtoiet の説法堂，百万バーツ。トゥンクラーチャリムラート森の寺の説法堂，百万バーツ。Donsmoe 森の寺の説法堂，百万バーツ。Sripornsai 森の寺の説法堂，百万バーツ。その他の寺院周辺の建設等，Ban Raoro-Ban Nongbua 間道路 2 キロ，40 万バーツ。Ban Porndum－トゥンクラーチャリムラート森の寺間道路 2 キロ，40 万バーツ。Sripachapattanaram 森の寺ため池，20 万バーツ。Sripwanwanaram 森の寺ため池，30 万バーツ。Wat Sawang-aarom ため池 5 万バーツ。トゥンクラーチャリムラート森の寺，ため池 5 万バーツ。

4　福祉：Ratchasansutianuson 学校に保育園建設，15 万バーツ寄付。以下，教室建設，150 万バーツ。体育館建設，150 万バーツ。塀，30 万バーツ。給食費用，5 万バーツ。教育資金 3 万 1 千バーツ。Amper Ee-ngong の 7 つの学校に給食用資金それぞれ，1 万バーツ。E-ngong 中学校に 500 バーツ，15 人分の奨学金を毎年支給。商科短大に毎年 1 万バーツ，1 人分奨学金。舞踊短大に同じく一人分千バーツ。給食資金を，Yaango，Chinowaramron 学校に支給。郡内各学校に仏像を寄贈。Ban Dongean 保育園校舎寄贈，5 万バーツ。Mahamongkut 大学に書棚と書籍，20 万バーツ。寺内パーリ語学校に教育資材，百万バーツ。40 年来，同寺では 60－70 人の子供達をあずかり学校へやる。雨安居に毎年 100－400 名の出家者を教育。

5　布教：海外布教は 30ヶ国以上。国内は東北タイを中心に各地，各団体，各層を対象。40 年以上，各種学校にて講演。大学は，Mahamongkut，Roi-et 校中心に大学，大学院相当の授業。Mahasarakham 大学 FM 局とタイ FM 局 Roi-et 支局の放送で法話を毎日流す。

6　その他，瞑想行の指導，仏日ごとの説法，植樹，芸術・文化の保護等。自分で行い，次いで人々に自分を確立すること，協力することを勧める。開発を行うには，その地域をよく見極めることが大事である。開発の知識が不足しているところには，それを教え，資金が不足している場合は，それを集めるなど。

11）開発方法：1　心を平安に，情緒を安定させるような法話を行う。

2　知恵をつけるような法話を行う。心，言葉，行い，真実について知らせる。僧侶の役割というものは，仏陀も話しているとおり，法を説くこと，行を指導すること，心の開発と相談にのること，禁欲（戒を守る），社会の管理（統治の手助け）。

12）開発の障害：民衆の知恵のレベル，教育程度が低いことなど。

13）支援団体：篤信者が開発資金などを提供してくれる。

25　Pra Panlop Jinthammo

タンマユット派森の寺の頭陀行僧であるが，Wat Kampramon は在家の特別な寄進により建立された壮大な寺院である。瞑想修行道場という看板からは想像もつかない巨大な僧堂，シン老師の記念館，溜池，参道にいるクジャクなど，観光客すら訪れるくらいである。バブル期に Bangkok の資産家が功徳を示したメモリアルの一つと思われる。住職自身に面会はできなかったので，秘書の僧より聞き取りを行った。

1）出身地：Kanchanaburi 県
2）寺　院：Sakhonnakhon，Amper　Phananikhom，Tambon　Sawan，Ban　Kampramon，Wat Kampramon　タンマユット派
3）年　齢：43 歳
4）安居年：19 年
5）学　歴：Kasetsart 大学工学部卒
6）僧学歴：仏教学 3 級
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1995 年
9）履　歴：不明
10）開発事業：寺院には，僧侶 9 名，沙彌 1 名，メーチー 1 名，寺奉公子弟 3 名。
事業として具体的には，貧しい住民の棺桶を作る。寺の境内と地域に植林（1 回につき 50 ライ）。布教が最も大切。毎日，村人に説法。仏日には 20 人ほどの村人が来る。子供たちに仏法の講習。招請されれば，出かけていき説法する。

寺院内に水道，電気施設を自分で設置。説法堂，庫裡，ため池，寺へ通じる道路等を全て建設。現在，開発事業を計画中であり，そのひとつとして，大僧堂を建設している。

同寺文書資料によると，Wat Kampramon の境内は 48 ライ，敷地 300 ライ。寺は民衆のもので，王室管轄ではない。1996 年に建設完了。住職はパンロップ氏のみ経験。寺では毎日説法を行い，安居期間には 500 名，それ以外にはのべ千名程の信者が訪れた。寺の宗教的資産としては，仏像，三蔵経典，台所用品，机，椅子，寝具，真蓙，僧の台座，水，電気，電話，車等。境内の建築物として，布薩堂，僧堂，庫裡，僧房，VIP 用の僧房，図書館，台所，ため池，井戸，トイレ，鐘楼，信者用宿泊施設等。

同寺は，三蔵学習のための学校，瞑想修行のための研修を行う。また，公共的な徳を実践する。例えば，貧困者に棺を与える。農業の指導。寺にある上記備品の無料貸し出し。タンブンに招請された場合，村人に，枕，毛布，食餌，筆記用具，ノート，本，衣料，建築資材などを持っていってやる。

同寺は，村落内貧困者のために，寺院内部の建築の出面仕事を分けてやっている。

毎年，8 月 13，4 日に Jin Puttajaro 老師の亡くなられた日，3 月 22 日 Panlop Jinthammo 師の誕生日に特別な祭典を行う。

11）特　技：説法師。忍耐力。戒律を厳格に守る。
12）支援団体：役人。軍人。工業省地下資源局。潅漑局，地域開発促進事務所等。NGO。

26　Pra Krian Theetayuko

動物や中国の仙人等の彫像やピマイの遺跡を模したクメール様式の建物，記念館など，ミニ・サヤーム的遊園地を彷彿させる境内である。師の話から東北タイの頭陀行僧はビルマ，北部タイ，ラオス等の地域を自由に回っていたことが伺える。寺に止住するようになってから，開発ということを意識することもなく，地域との関係の中で様々な事業を行ってきており，開発僧として調査者が発見した僧侶である。その意味では，開発僧という概念は宗教伝統や地域の文化からは切れた近年の開発言説の中で生まれたのである。

1）出身地：Sakhonnakhon，Amper Meuang，Tambon Dongmafai，Ban Dongmafai
2）寺　院：Sakhonnakhon，Amper Meuang，Tambon Donmaai，Ban Dongmagai，Wat Sawangwattana　タンマユット派
3）年　齢：60 歳
4）安居年：40 年
5）学　歴：小学校 4 年
6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職　僧団内地位：区僧団長
8）開発開始年：1979 年
9）履　歴：師はガルン民族であるが，農家に生まれ，小学校を卒業後，10 歳で沙彌になる。Wat Surisart にて出家後，Ban Nagramphu にて安居を過ごし，20 歳の時に Wat Krusanam にて比丘になる。戒和尚は Witumdhamgit 和尚。師は国内中を頭陀行で周り，ビルマ，ラオス，マレーシアにも行った。自然の豊富なこの地域を回りながら，自然を学んでいった。なぜなら，法とは自然そのだからである。1965 年，ラオスで革命が起こり，森に入っている僧に帰るよう指示があった。それ以来，森にタイ共産党が入るようになり，1971 年に師は森から帰ってきた。

その後も各地を回り，外国に 1 年いたこともある。サンガは毎年頭陀行に出るよう言ってきたためであったが，実際の効用がなければ，ただ歩き回るようなことはしない。毎回，国内・外信者の招請があり，通訳を現地でしてもらったこともある。旅に際して，多分の布施を受けたが，それを自分のものにしたことはなく，それを持っていって必要な人に与えた。自分の取り分は飛行機賃だけであり，船で行った場合は，費用の残りを自分の財団に入れた。

10）開発事業：寺に僧 8 名，沙彌 1 名がいる。具体的な事業内容は以下の通り。
1　境内の建築及び彫刻，造園等。これらは自分が作ったものではなく，こうした職人で仕事がないものに手間仕事を与えたり，師自身が煉瓦の積み方などを村人に教えてさせたもので，職業教育になっている。
2　タイーラーオ，ヨー，ヨーイ，ソー，プータイ，ガルン計 6 部族の民族博物館建設。内部展示は，衣装他，諸部族の文字や入れ墨の文化等。かつての男達は皆我慢して入れたものである。Sakhonnakhon 県内にいる自分の一族をはじめ，後世の子孫たちに歴史を伝えたい。
3　米銀行。これは師自身が思いついたものである。村人に米を寄進してもらい，籾を境内の米倉に貯蔵し，米のないものは誰でも持っていってよいことにした。同じ量だけ，

次の年に返せばよい。なければ仕方ない。2月にはまた村人達が寄進してくれる。だいたい，9月と10月から減り始める。この事業は寺を造ってからすぐ始めた。

4　Sakhonnakhon 市内託児所への基金を集める議長。
5　チェーンチュム中学校に図書館を建設。
6　チューンチュム中学校に自分の財団を作る。
7　Sakhonratwitayanugoon 中学に本を寄贈。
8　毎年，数校に1万バーツずつ教育資金を寄贈。
9　1985年から Boontawan 校を支援しているが，その当時子供一人あたり1バーツで昼飯を作らせてきた。この事業は，信者の賄婦が年をとったために2年前に終了した。

物質的な開発と精神的な開発は同時に行わなければならない。いつも語っていることは次のようなことである。貧しいものは自分で自立することを目指さなければいけない。考えたことは実行する。やらなければ，考えないことと同じである。自身でやって見せた方がただ教えることより実があるし，他の人に頼むより自分でやった方が，いい結果が出る。

11）開発方法：仏法をただ本気で教えているだけで，布施をあげていればじきに極楽に行くなどとは決して言わない。必要なことは自分の力でやる。金がほしければ勤勉に働きなさい，と教える。また，格言などを用いて教えることもある。例えば，他人を見るときには良いところを見なさい。自分を見るときには悪いところを見なさい。
12）特　技：テートスィアン，技術系の仕事，造形，彫刻など。
13）開発の障害：かつて，共産主義者と警察に睨まれたことがある。共産主義者から金をもらって人々を助けているのであろうと。しかし，彼等が師の後をついて回ると，師が仕事のために歩き回っているのであり，受けた布施は全て持って帰ることが分かり，信用するようになった。説法で受けた布施は全て財団に入れている。
14）支援団体：村人，篤信者
15）将来計画：若い世代に役に立つような仕事を様々にやってみたい。

### 27　Pra Prashit Chatapano

マハーニカーイ派のごく普通の寺であり，住職が手先の器用さを生かして，法事やロウソク祭り等に用いる飾り，山車等を作ることを事業化しようとしている。

1）出身地：Sakhonnakhon，Amper Meuang，Tambon Faengyang，Ban Panao
2）寺　院：Sakhonnakhon，Amper Meuang，Tambon Faengyang，Ban Panao，Wat Panao　マハーニカーイ派
3）年　齢：53歳
4）安居年：33年
5）学　歴：小学校4年
6）僧学歴：仏教学1級
7）寺院内地位：住職　僧団内地位：区僧団長
8）開発開始年：1977年
9）履　歴：農家に生まれ，20歳の時，勉強と自分を高めるために出家した。もちろん，

慣習に従ったまでであるが，出家してからもう少し僧でいようと思った。Wat Tanmafai で出家してから，Wat Sureesa-aat で 1968 年から 1 年仏法を学び，Phupan 山地に分け入り，頭陀行を開始した。故人となった Kamporn 師に師事したこともある。Karasin 県の Amper Somdit が頭陀行で一番遠いところである。1982 年からこの寺の住職をやっている。

10）開発事業：寺院には僧 5 名，沙彌なし　子僧 3 名がいる。

具体的には，Wat Chengdoyonprat にて仏教学 1 － 3 級の内容を教える。寺内の僧堂，説法堂，布薩堂，僧坊，多目的使用の僧堂等の建設。

1996 年より，子供の託児施設を支援。Tambon　Banbangpaeng と Tambon　Faengyang にある学校に教育資金を寄贈。主婦グループの会員を支援。スー・クワン儀礼などの伝統・慣習的なものを保存する活動を支援。重要な日に説法など。仏日には在家，特に女性が 25－30 人ほど集まる。

蜜鑞装飾の宮殿模型を昨年のコンクールに出品した。予算は 20 万バーツで，賞金を獲得した。これは小学校を卒業した 10－13 歳の子供たち 5 名が関わったもので，大人 2 名が指導している。住職が職業教育として子供たちに，バナナの葉での包み方，彫刻の仕方，文様の描き方などを教えている。

問題を抱えた信者の相談にのる。

境内に村の米銀行の倉庫がある。これは 1996 年に地域開発局が設立したもので，住職はこの事業に関わっていない。

11）開発方法：女性グループが生まれてきたら，手助けしてやるなど。問題が発生したら，相談にのり，解決してやる。

12）開発と仏法：5 戒を守り，心を静める。瞑想実践など。人は生まれたときには貪欲，怒り，迷い等はなかったはずだ。

13）特　技：バイシー・スークワン儀礼，花，装飾品を作るなど。

14）開発の障害：たいしてない。どの村にもいるように，寺に関心のない村人がいること。

15）支援団体：村人，村議会，市，学校，開発担当官等。

16）将来計画：その都度，思いついたことをやって行くだけ。そのための予算を用意しておく。

### 28　Pra Pairat Yantoro

マハーニカーイ派の森の寺である。前住職が頭陀行僧として人々の崇敬を集め，現住職は若くしてその地位を継いだが，現在さらに修行を重ねているという段階である。瞑想修行道場としての寺，実践である。

1）出身地：Ratchaburi，Amper Banpong

2）寺　院：Sakhonnakhon，Amper Mueang，Tambon Faengyang，Ban Muang，Wat chiangdoiteprat　マハーニカーイ派

3）年　齢：32 歳

4）安居年：8 年

5）学　歴：中学 3 年

6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1996 年
9）履　歴：師は Ratchaburi，Amper Banpong に生まれ，両親は商人であった。中学卒業後，父親の仕事を手伝い，Bangkok の役所に物品を運ぶ仕事をやった。24 歳の時，突然出家したい衝動に駆られ，出家した。Sakhonnakhon，Amper Toangoi ウドムソンポン森の寺にて出家。Kamforn Mitonpani 老師に師事。前住職である。老師が死去されてから，請われて 1995 年より，住職である。
10）開発事業：寺院には，僧 3 名，沙彌 2 名。具体的には，境内に僧堂，僧房，橋等を建設。毎仏日に村人が 10 人ほど来て，瞑想を行う。この瞑想の試みは 2 年目で，まだ集まる人々が少ないが，これから広まっていくと確信している。説法や村人に頼まれて聖水をかけたりもする。村に問題が発生すれば，相談にのり，村人を助ける。
　村の法事，年中行事などの手伝いなど。
　寺は，周辺村から少し離れた山腹にある森の寺である。村はモンークメール語を話している。寺周辺には岩盤が露出し，その上に寺が建てられ，瞑想修行の道場にふさわしい環境である。寝仏，古仏など，千年を遡るタワラワディー時代のものがあり，歴史的な史跡の上に現在の寺がある。住職は，瞑想修行三昧の毎日である。
11）開発方法：道徳を重視。皆，徳を持っていれば，難儀をすることなどおきないはず。5 戒，8 戒を守ることを心の中で決意することである。
12）開発と仏法：僧は村人に知らせるに値する知識を持っていなければならない。その知識により，地域に貢献することが大事である。
13）開発の障害：あまりない。この寺は村人と良好な関係を保っており，村人は寺を崇敬している。
14）支援団体：村人，役人等。
15）将来計画：多くの人に仏法を実践してもらいたい。そうすれば，心が豊かになるであろう。

### 29　Pra Somwit Tammaro

タンマユット派の現代的な頭陀行僧，森の寺の住職である。テート老師のおぼえがめでたかった若い弟子であり，老師の開発事業を事務的な面で支えた。現在は，老師時代からの信者に，新しい在家の信者を加え，パトロンから見れば，森の僧として売り出し中の気鋭の僧侶という感じである。マン老師に連なる頭陀行僧の主流派の系譜を継ぎ，無駄のない話ぶりといい，カリスマ的魅力を感じる中間層の在家信者が少なくない。

1）出身地：Ayutthaya，Amper Pahan
2）寺　院：Sakhonnakhon，Amper Phannanikhom，Tambon Rai，Kamka 森の寺　タンマユット派
3）年　齢：40 歳
4）安居年：12 年
5）学　歴：Thammasart 大学商学科卒

6）僧学歴：仏教学 1 級
7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1992 年
9）履　歴：師の家族は王族ともつきあいのある家柄であった。母が結婚するとき，祖母がメーチーになった。出家者に布施をする人を見たとき，極楽行きを願ってやっているだけなのだろうか，それだけではあるまいと思ったが，その後考えることもなく，学校を卒業した。商業銀行に 3 ヶ月，タイ国立銀行に 4 年勤務したときに，両親に連れられてテート老師のところへ行った。老師は出家するのであれば，来年 1 安居することをすぐ決断しなさいと言われ，そうすることにした。1992 年に 1 安居過ごすつもりで出家したが，出家してみると僧の世界と世俗の世界には考えていた以上の違いがあり，さらに勉強を続けたいと思った。会社はこれ以上休めなかったので，どちらを取るかの決断は素早くなされた。仏教学，三蔵，止観を学び，テート老師に仕えた。老師は師以外の僧侶をあまり用いようとはしなかったので，ずっと Wat Hinmarkpeang に留まった。テート師の仕事をずっと手伝ってきたが，それは民衆の生活を様々な局面で向上させる事業であったからである。森の僧はかつて全て自分ただ一人で行ってきたが，在家と関わっていくと，彼らに恩返しをしなければいけないのではないかと思うようになった。しかし，森にいる間は何もできなかった。現在，開発に関わる領域の仕事をすることが，自分の行にもよい結果をもたらすのではないかと考えている。僧と社会は共にある。
10）開発事業：テート師を支え，仏教の発展に尽くした。テート師の事業に師が直接関わったものとしては，4 カ所に僧堂，3 カ所に布薩堂，3 つの学校に講堂，2 つの学校に図書館，教室棟を建設した。これ以外に，昼食の給食を与える基金創設。病院の入院棟を 3 カ所に，疾病僧への基金を創設した。

師自身が計画したものとしては，屠殺場から買ってきた家畜をもとに水牛銀行を作った。殺生は断固として禁じる。寺の北，60 ライ余りを 2540 年に村議会から買い上げ，そこに寺院を建設して，その際村人を出面に雇う。ガチン祭を行い，ラオス民主主義人民共和国の古寺を修復することを考えている。

森林保護。最初は古い木の間に植林し，それが生えてくると森林内の動物も食べることができるようになる。フトモモ，榕樹，ルカムモモ等であり，森はフタバガキが多い。

テート師が亡くなる前に，この寺に信者らが仏塔を建立する許しを得，だいたい完成している。テート師は死後自分のリエン（名僧のメダル）を作ることを命じられ，その業務は Wat Hinmarkpeang が行った。それ以外に Amper Srichaingmai 教育委員会がテート師を記念するリエンを作った。2537 年テート師の記念館を完成した式典で参加者に与えられた。図柄はパットヨット（国王が僧に贈った長柄の扇）と同じである。
11）開発方法：機会を得たら，核心を押さえる。十分な知識と資金を得たら，試してみる。
12）開発と仏法：最も大事なことは，開発は仏法の普及によって達成されるということである。
13）特　技：熟達している事柄は，テート師と自分の場合は全く異なるであろうし，教育や社会経験によって異なってこよう。
14）開発の障害：ちょうどすこしばかりある。村人があまり協力し合わないことであるが，

そうたいしたことではない。民主主義をしっかりおさえておれば，問題は発生しないであろう。村人の相談に予めのり，十分な資金的裏付けがあって，はじめて着手する。資金の不足は，テート師の徳とテート師への信仰がある限り，あまり大きな問題ではない。仮に，問題が起こったとしても，テート師は多くの人々のために最後までやり遂げるであろう。私は，師のためにもやり遂げる。

15）支援団体：テート師の信者，篤信者，自分たちの事業を見て支援したいと思う人々である。

16）将来計画：子供達のための道徳的研修。この近辺では森で死体を焼いているので，火葬台を作る。しかし，現在は，村人の心のよりどころとなる寺を造っている最中なので，それが先である。寺を村社会のセンターとして用いると共に，止観（瞑想修行）の場として用いたい。村人の生活が安定するように全ての面で開発を計ること。子供のために道徳心を涵養することと，自然を残すこと。乾期の夏休みに子供達に出家させる。子供達に昼食の給食を提供したり，公共的事業を行うなど。

僧はいったん口にしたことは必ず行わねばならない。実現しない場合は，うそを言ったことになるので，計画などは本来語るべきではないのである。

### 30　Pra Jen Jantawongso

タンマユット派の寺。メーコン河の屈曲部に位置する景勝地にある寺であり，名刹でもある。前住職は頭陀行僧の名僧であったが，現在の住職は中年ということもあり，寺をさらに発展させるほどのカリスマはないようである。

1）出身地：Loei，Amper Chiangkhan

2）寺　院：Loei，Amper Chiangkhan，Tambon Chiangkhan，Wat Takeak　タンマユット派

3）年　齢：40 歳

4）安居年：20 年

5）学　歴：中学 3 年

6）僧学歴：仏教学 1 級

7）寺院内地位：住職

8）開発開始年：1989 年

9）履　歴：母方の祖父が出家しようとしていたができなくなり，師に代わりに入り安居の時に出家してくれるよう頼んだ。誰も師がそのままずっと僧であり続けるとは思っていなかった。Loei，Amper ChiangKaan Tambon Nasaao Wat Sureeponteen にて出家した。この寺の由緒は古く，Ayutthaya のナライ王時代に建立されたものであり，マン老師がいたこともある。マン老師の弟子であるサーオ老師，ファン老師もいたことがある。村人がこの寺一帯の森林にかなり入り込んできて伐採し，森林が消失しているので，サンガは雨安居の時期には必ず僧がどの寺にも留まるよう指示したが，村人と問題を起こすことがある。Wat Takeak は付近の廃寺から遠いために管理が行き届かない。1997 年で寺は 331 年目を迎える。

10）開発事業：寺院内に僧 3 名，沙彌 1 名がいる。

村人への説法。仏日や村人が寺に来たときなど，仏法を説明する。新築，結婚式などで，村人から招請を受けた場合，出かけていく。これは僧の重要なつとめであり，朝，夕に読経を行うところもある。

夏期の休みに子供達に出家させる計画がある。バンファイ祭り（雨乞いのロケット祭り）を 2 日間にわたって行う際，村人と準備を行う。ジャータカ誕生祭に大生経を読む。この寺ゆかりの老師をしのぶ記念祭に村人を動員する。村人と共に名僧の寺を巡拝する。近くではテート老師の Wat Hinmarkpeang，その他 Pathumthani，Rayong 県まで出かけることもある。

その他，寺内部の建築などを行う。

11）開発方法：まず，村人とよく話す。彼等との関係を良好に保ち，具体的な開発に持っていく。

12）開発と仏法：僧は村人を頼り，村人は僧に頼る。開発を行う場合は，よく相談する。普段の説法において，村人に信仰心が生まれるように話し，村人と僧の心が連帯するよう心がける。

13）特　技：説法，コーディネート

14）開発の障害：掘削機を使って付近を掘り返し，年代物の品々を盗むものがいる。最初は村人が，こうした歴史的仏教遺品をサイヤサート（呪術）に用い，ピーを信じていたのである。師は村人に迷信を捨て仏法に帰依するよう説教した。仏教は因縁を用いた因果論であるからだ。村人はこうした迷信も必要であるとか，これは自分たちでやっているのだから関係ないとか主張し，師と意見が合わなかったが，次第に師の話に耳を傾けるようになった。もちろん，未だにピー，精霊信仰を持っているものもいる。

15）支援団体：村人，篤信者

16）将来計画：今度の入り安居には 84 名のナーク（出家志願者）を集める。
寺の敷地を周りの土地を布施してもらうか購入することで拡張する。
様々な病気を治すための薬草を栽培する。

子供達のために学校を建設し，資金に余裕があれば無料で教える。仏法も教える。
90 床くらいある病院の建設。

### 31　Pra Sangkhom Sampanno

タンマユット派の森の寺。頭陀行僧の伝統に連なる僧侶である。父母の故郷の村に招請され，そこで教育を中心に地域の開発を単独で行っている。質素な寺の周辺の森には毎日行で通る道がある。

1）出身地：Roi-et，Amper Pranonprai

2）寺　院：Ubonratchathani，Amper Warin，Tambon Bongwai，Ban Takhoi，Wat Phamongkon　タンマユット派

3）年　齢：35 歳

4）安居年：14 年

5）学　歴：高等学校卒業

6）僧学歴：仏教学 2 級

7）寺院内地位：住職
8）開発開始年：1992 年
9）履　歴：両親が寺で持戒する際連れていってくれたので，子供の頃から仏教に興味があった。また，自分の家が森の寺に近かったので，頭陀行僧の系統に属する僧侶を知る機会があった。この僧は心の問題で悩み，一心に祈っていた。心の探究をしていたのである。師の子供の頃の話であり，当時はそうした事柄を十分に理解できなかった。しかし，振り返ってみるとこうした経験により，師はいつの間にか，仏教に関心を持ち，勉強したいと思うようになったのである。仏法とは自分で学んでいくものであり，誰かに教えてもらうものではない。自分の心の中にいつの間にかそうした思いがわきあがってくることが大事である。何事も心の中から生じる。瞑想修行の流派では心を探究することを重視する。これは三蔵を学ぶことを第一とする派との違いである。

15 歳の時に Roi-et 県グン森の寺にて沙彌になり，3 年続ける。1982 年にもう一度同じ寺で出家し，比丘になる。それから 1987 年までマン老師の弟子である Maha Boonme に師事し，修行する。その後，Udonthani，Amper Banpeu の寺等を安居の度に変えながら歩き，Boonme 老師が Mahasarakham 県ムアンルン森の寺で死去した後，この寺を出て一人で頭陀行を行った。Takhoi 村は母方の祖父母がいる故郷であり，両親はそこから Roi-et 県，Udonthani 県と移り住んだので，この村は聞き知っていた。村人が師を招請したので，この村に Takhoi 森の寺を創建し，住職となって現在に至っている。

10）開発事業：1　1992 年より，村から寺までの道を切り開き，寺の建築を進めてきた。本堂は未だ藁でふいており，設備もようやく整ってきたところである。

2　Takhoi 村の小学校に教育資金と給食用資金を提供している。それは貧しい村野子供達が勉強を継続できるようにである。また，境内に子供が住む宿舎を建設，10 人の子供が住む（男子と女子分かれて）。子供達には 1 日 20 バーツを与える。また，土日に 5 人を Amper Warinchamrap のタイプ学校に通わせており，交通費と食事代 20 バーツを与える。子供達はさらに遠くの村から出てきたもの達である。

3　日曜仏教学校を開き，仏法を教える。これは宗教局から許可を得ている。20 人ほど通ってくるが，田植えのシーズンでは，子供達は手伝いがあるので閉める。

4　1996 年王の即位 50 周年を慶祝する計画として，高名な僧侶に説法をしてもらうための寺を献上した。

5　1993 年，高名な僧侶の威徳をしのぶ博物館を境内に建築した。10 坪程の大きさ。信者や村人が，子孫達に残すために，家にある僧侶のリエンや遺骨の粒，仏法書などを収めて，誰でも見てさわれるようになっている。

11）開発方法：村人に信仰心を起こしてもらい，自分自身の心を見つめてもらい，それから教育等の具体的な開発を導いていく。この村はタイーラオの国境村であり，村人は漁民と農民であり，まだ誰一人として役人になったものがいない。ここで教育を行うことで，次世代が勤め人になる機会を得ることができるのではないか。

12）開発と仏法：慈悲の心。村人に道徳，持戒を教える。

13）開発の障害：村人達は，師が訪れる前は，精霊信仰をもっており，葬儀の際，鶏を放り投げて鳴かせ，その音で火葬があることを皆に知らせ，鶏が落ちたところに死者が行きた

がっているとして，そこで火葬を行うなどしていたのである。村人は僧が来ることで，森林を伐採したり，中で食べ物を探したりすることを禁止するのだと思いこんでいるものがいる。開発資金の不足である。

14）支援団体：村人。村長は人手が必要なときに助けてくれ，その他信者が師の開発事業を支えている。宗教局の援助はわずか。

15）将来計画：境内周辺には 165 ライの森林があるが，これを保護したい。森には薬草になるものが豊富で医者が視察に来たほどである。また，森があることで鳥も食べるものに困らない。

### 32　Pra Boonchu Supajitto

サイヤサートの霊力によって近隣に知られ，商売の関係者がよく訪れる。僧の話はかなり神がかっており，本堂の仏像，飾り，ロウソクなどの構成も，祈祷所という感じがある。

1）出身地：Yasothon，Amper Patui

2）寺　院：Ubonratchathani，Amper Warinchamrab，Sasaming，Wat Nongyai　マハーニカーイ派

3）年　齢：36 歳

4）安居年：16 年

5）学　歴：不明

6）僧学歴：仏教学 1 級

7）寺院内地位：住職

8）開発開始年：1987 年

9）履　歴：1961 年に生まれ，1976 年に Yasothon，Amper Patui，Tambon Pohsai，Wat Pasuriyalai にて沙彌になる。そのまま，同じ郡のウパパーラーム寺にて 1981 年に比丘となり，1990 年に Yala 県で仏教学 1 級を取得。

比丘になることを決心したとき，心の中で誓願したことは，前世の業から逃れて，ここから新しく人生を始めたいということであった。それから，座って瞑想していると天界の神が現れた。師が神を「老師」と呼ぶと，神は信号のようなものを送ってきた。それは文字表の形に写し取られた。それは古代文字であり，師が学んだことなどないものであった。師はこれをいつの間にか美しく，正しく書き出していたのである。それは不思議なことであったが，別の人間に瞑想を試みさせ，同じような文字を書かせることができたのである。師は神を座るよう招き，どのようなことを書いたらよいのか指示してくれるよう頼んだ。師にはこうした神秘的体験があり，現在は 1 日 1 食である。

10）開発事業：管理的業務として，Wat Nongyai の住職。1994 年より，Amper Pathep，Pathepwittaya 中学の教育財団の理事。Pracharatsamakkee 中学教育委員。三蔵の教師。

開発事業は以下の通り。

1　寺の建築。仏塔の建立。近辺の寺の支援。

2　寺や学校を支援する事業の代表を幾度か務める。

3　境内に仏法を学ぶ学校と宿舎を建設，貧困層の子弟を沙彌としておく。中には大学ま

で行ったものがいる。

4　30 もの学校に，年千バーツずつ教育資金を提供。給食，生徒への自転車貸し出し，成績優秀なものへの支援等に役立てる。

5　イベントに使える僧堂を建設。Pathepwittaya 中学に図書館を建設。

6　その他，井戸などの公共施設を建設。

7　精神面の開発。民衆に問題が発生したとき，例えば，神経質になったり，落ち込んだときなど，師を訪ねてくれば，聖水を振りかけたり，仏法の核心を体得することを助けたり（これは説法だけではなく，呪術的な祈祷がある）する。こうして，問題は解決する。師は，近在の信者のために，寺の仕事の合間をぬって火曜日と土曜日を訪問日として設けている。

8　病気治療。師の霊力，瞑想，聖水，薬草などによる。

9　お守り作り。

10　昨年より，村を周回する道路を開き，村人や托鉢する僧の便宜を図っている。

11　本堂を建設し，信者達が瞑想修行をする場を提供する。具体的な開発計画や建設の段取りを考える。資金を布施から集める手はずを整える。師の信者が率先してやってくれる場合もあり，信者の中には役人もいるのでインフラ的な計画には役に立つ。

11）開発方法：集めた資金は計画ごと，各地の寺ごとに分配する。

12）開発と仏法：格言的な言い方では，必要なことを済ましておけばさっぱりするとか，信仰を持てばがんばる力がわくなど。

13）特　技：人の心の中にある神秘的な事柄を調べる力がある。薬草，瞑想，霊力（心の力）を用いて，身体の中央線からくる疾病（中風）等を癒す。また，霊験を込めたお守り，例えば丸太を加工したご神体状のもの，うっかりして交通事故を起こさないように，また気が変になった人に与えるお守り等を作ること。

14）開発の障害：一般的に資金的な問題はないのであるが，大がかりな工事機械を使うような場合はかなり金がかかる。村人の人手は出面賃で足りるが，機械ものは作業する人の人件費も含めて借り賃がかさむ。時には，適当な価格で借りて足を出さないこともできるが。

15）支援団体：村人や，Nakhonpathom，Amper Banyai，Songkhla 県，Yasothon，Amper Gansarak，Sisaket，Amper Detudom，同 Amper Namklong と Amper Piboonmangsahaan，Ubonratchathani 県等から来る信者。彼等の職業は様々であるが，地域の有力者であることが多い。役人からといえば，宗教局から支援を得たこともあるが，年間 3－5000 バーツぽっちであり，今ではもらっていない。

16）将来計画：寺自体を立派にすること，境内に病院を建設すること，教育資金の規模を拡大すること，村落を支援するなどの開発事業をやっていくことなどである。

## 別表１　コンケーン大　東北タイ開発僧調査

| ケース番号 | 名　前（出家） | 出　身　県 | 寺　院　住　所 |
|---|---|---|---|
| 1 | Samrit Suparo | Amper Pon, Khonkaen | Wat Pohsri, Tambon Taapra, Amper Meuang, Khonkaen |
| 2 | Supachai Sujitto | Amper Meuang, Khonkaen | Wat Dtanriang, Ban Peu, Tambon Pralap, Amper Meuang, Khonkaen |
| 3 | Pattikhom Banyaro | Amper Poowiang, Khonkaen | Wat Sawaang-lerngsaeng, Tambon Gut-khonkaen, Amper Poowiang, Khonkaen |
| 4 | Khamkien Suwanno | Amper Nongreua, Khonkaen | Wat Pahsukadto, Ban Gutgohng, Tambon Gae-kror, Amper Gae-kror, Chaiyaphum |
| 5 | Boontham Uttamatamo | Amper Nongreua, Khonkaen | Wat Pohnthong, Ban Nong-gae, Tambon Chong-saammor, Amper Gaengkror, Chaiyaphum |
| 6 | Noopiap Suthammo | Amper Konsawan, Chaiyaphum | Wat Nongbualoi, Ban Nongmeuat-ae, Tambon Konsawan, Amper Konsawan, Chaiyaphum |
| 7 | Kanchit Kantamo | Amper Chadturat, Chaiyaphum | Wat Sawaangwaree, Ban Nongdohn, Tambon Nongdohn, Amper Chadturat, Chaiyaphum |
| 8 | Sriha Supajaro | Amper Gutchoom, Yasothon | Wat Talaat, Baan Talaat, Tambon Naasoh, Amper Gutchoom, Yasothon |
| 9 | Bandorn Shinwaso | Amper Buayai, Nakhon-ratchasima | Wat Glangnaanrong, Tambon Naangrong, Amper Naanrong, Buriram |
| 10 | Paiwong Suwanno | Amper Naanrong, Buriram | Wat Bansakaam, Tambon Meuangpai, Amper Nonggee, Buriram |
| 11 | Sanan Yanuttaro | Amper Buayai, Nakhon-ratchasima | Wat Nongee, Amper Nongee, Buriram |
| 12 | Chalermchai Khemmaweero | Amper Gamalasai, Kalasin | Wat Boopparam, Ban Kohkkohk, Tambon Kohkpra, Amper Gansawichai, Maha-sarakham |
| 13 | Boonlua Yasotaro | Amper Payaktapoopisai, Maha-sarakham | Watratchchareunmaboh, Ban Maboh, Tambon Lansagae, Amper Payaktapoopisai, Maha-sarakham |
| 14 | Nookrai Kantasrilo | Amper Payaktapoopisai, Maha-sarakham | Wat Nongnanai, Ban Nongnanai, Tambon Metdam, Amper Payaktapoopisai, Maha-sarakham |
| 15 | Narong Samo | Amper Payaktapoopisai, Maha-sarakham | Wat Glang, Tambon Nongsaeng, Amper Wapeepatoom, Maha-sarakham |
| 16 | Sataporn Shotidhammo | Ampher Meuangsruang, Roi-et | Wat Srisuk, Ban Koi, Tambon Nonghin, Amper Meuangsruang, Roi-et |
| 17 | Boonta Srikula | Amper Wapeepatum, Maha-sarakham | Wat Sunantaratch, Ban Suanpor, Tambum Nongkae, Amper Patumrat, Roi-et |
| 18 | Lamai Issaradhammo | Amper Senpoom, Roi-et | Wat Srithongnoppakhun, Ban Khumtai, Tambon Glang, Amper Senpoom, Roi-et |
| 19 | Sawat Suweero | Amper Kasetwisai, Roi-et | Wat Saithong, Tambon Gampaeng, Amper Kasetwisai, Roi-et |
| 20 | Nan Sutthasrilo | Amper Meuang, Surin | Wat Samakkee, Ban Sawang, Tambon Tasawang, Amper Meuang, Surin |
| 21 | Somjit Kantadhammo | Amper Meuang, Surin | Wat Mulaniwet, Ban Gagor, Tambon Tasawang, Amper Meuang, Surin |
| 22 | Taptim Anawilo | Amper Grasang, Buriram | Wat Maisrimaakthong, Ban Kohkpalat, Tambon Nokmeuang, Surin |
| 23 | Somnuak Sirichanto | Amper Meuang, Surin | Wat Pasopsuk, Ban Feung, Tambon Buruesi, Amper Meuang, Surin |

| 年齢 | 安居年 | 学歴 | 仏教学 | 開発開始年 | 寺開発 | 社会教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 24 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1985 | | | | | | | | | ○ | ○ | |
| 42 | 22 | 小学4年 | 仏教学1級，パリエン6段 | 1983 | | | | | | | | | | ○ | |
| 40 | 20 | 中学3年 | 仏教学1級 | 1981 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | |
| 54 | 25 | | | 1977 | | | | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| 58 | 25 | 小学校3年 | 仏教学1級 | 1971 | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 34 | 13 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1984 | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| 45 | 25 | 小学校6年 | 仏教学1級 | 1971 | | | | | ○ | | | | | ○ | |
| 51 | 31 | 小学校4年 | 仏教学2級 | 1983 | | | | | ○ | | | | | ○ | |
| 57 | 35 | 小学校4年 | 仏教学1級，論蔵の学位（博学） | 1976 | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 52 | 24 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1981 | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 56 | 28 | 中学校1年 | 仏教学1級 | 1973 | | | | | | | | ○ | | | |
| 42 | 22 | 中学教員特別免許証 | 仏教学1級，中学3年終了資格 | 1980 | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 42 | 21 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1984 | | | | | ○ | | | | ○ | | ○ |
| 35 | 14 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1979 | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 42 | 18 | 中学校6年 | 仏教学1級 | 1987 | | | | | ○ | | | | ○ | | |
| 49 | 25 | 小学校4年 | 仏教学1級，仏教学教師資格4級 | 1971 | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 75 | 54 | | 仏教学1級 | 1960 | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 51 | 32 | 中学校3年 | 仏教学1級，仏教学試験3級 | 1969 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 39 | 18 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1980 | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | |
| 63 | 43 | 名誉学士（学芸・教養）地域開発の功により | 仏教学1級 | 1963 | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 31 | 11 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1987 | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 34 | 14 | 中学校6年 | 仏教学1級 | 1981 | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 45 | 24 | 中学3年 | 仏教学1級 | 1985 | | | ○ | | | | | | | ○ | |

| ケース番号 | 名　前（出家） | 出　身　県 | 寺　院　住　所 |
|---|---|---|---|
| 24 | Pramual Tanissaro | Amper Praasaat, Surin | Wat Suwanwichit, Ban Gang-aen, Tambun Gang-aen, Amper praasat, Surin |
| 25 | Damrong Kantasrilo | Amper Praasat, Surin | Wat Muneeniramit, Tambun Cheuaplerng, Ampher Prasart, Surin |
| 26 | Charoon Taruwano | Amper Pon, Khonkaen | Wat Sohmmanat-santayaram, Ban Kaiseneeronnayut, Tambon Nongkongwaang, Amper Meuang, Udonthani |
| 27 | Kongchan Ratnopas | Amper Banpeu, Udonthani | Wat Srisa-aat, Tambon Banpeu, Amper Banpeu, Udonthani |
| 28 | Srikran Yannawisutthi-koon | Amper Nonghaan, Udonthani | Wat Srisuthatip, Tambon Nongmek, Amper Nongsaan, Udonthani |
| 29 | Sommye Boonauang | Amper Amnaatcharoeng, Ubonratchathani | Wat Keuang Glangnai, Tambon Keuangnai, Amper Keuangnai, Udonthani |
| 30 | Kawn Dhammathinno | Amper Meuang, Nakhonpanom | Wat Saengkasem, Tambon Meuangdet, Amper Det-udom, Ubonratchathani |
| 31 | Sukhee Paripoonno | Amper Phana, Ubonratchathani | Wat Nong-om, Tambon Nong-om, Amper Det-Udom, Ubonratchathani |
| 32 | Chanla Dhammaratano | Amper Uthompornphisai, Sisaket | Wat Sompornratanaram, Ban Sompornrat, Tambom Nongsanoo, Amper Boontari, Ubonratchathani |
| 33 | Somsak Kittiyano | Amper Huataphaan, Ubonratchathani | Wat Poesri, Ban Kutsuay, Tambon Kampra, Amper Huataphaan, Ubonratchathani |
| 34 | Boonkorng Tanachitto | Amper Huataphaan, Ubonratchathani | Wat Srikhunkantharot, Ban Nakhru, Tambon Saangtornoi, Amper Huataphaan, Ubonratchathani |
| 35 | Sawat Watano | Amper Srisonkram, Nakhon-phanom | Wat Thepmongkon, Tambon Boong, Amper Amnatchareon, Ubonratchathani |
| 36 | Chalerm Chittisrilo | Amper Noonthai, Nakon-ratchasima | Wat Nonmeuang, Tambon Nonmeuang, Amper Kamsagae-saeng, Nakhon-ratchasima |
| 37 | Chan Khunawuttho | Amper Chokchai, Nakon-ratchasima | Wat Beungpra, Ban Beungpra, Tambon Talaatkaao, Amper Chokchai, Nakhon-ratchasima |
| 38 | Aan Panyatharo | Amper Daankhunthot, Nakon-ratchasima | Wat Tunsawang, Ban Tunsawang, Tambon Hindaat, Amper Daankhunthot, Nakhon-ratchasima |
| 39 | Banyat Anuttaro | Amper Buayai, Nakon-ratchasima | Wat Pahdhammada, Ban Keumma-oo, Tambon Nongwaa, Amper Buayai, Nakhon-ratchasima |
| 40 | Opast Niruttimetee | Amper Pakthonchai, Nakon-ratchasima | Wat Prommaratch, Ban Prommaratch, Tambon Toom, Amper Pakthonchai, Nakhon-ratchasima |
| 41 | Chirawat Issaro | Amper Uthompornphisai, Sisaket | Wat Kohksisaket, Ban Kohksanoi, Tambon Nok-ok, Amper Pakthonchai, Nakhon-ratchasima |
| 42 | Sanith Akkachitto | Amper Pakthonchai, Nakon-ratchasima | Wat Pronimit, Tambon Sagaeratch, Amper Pakthonchai, Nakhon-ratchasima |
| 43 | Prakruu Withkromkana nurak | Amper Taphaanhin, Phichit | Wat Srikiwkanaram, Tambon Srikiw, Amper Srikiw, Nakhon-ratchasima |
| 44 | Khong Kitisopano | Nakon-ratchasima | Wat Magleuamai, Tambon Magleuamai, Amper Suangnern, Nakhon-ratchasima |

| 年齢 | 安居年 | 学歴 | 仏教学 | 開発開始年 | 寺開発 | 社会教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 | 14 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1984 | | | | | | | | | | ○ | |
| 47 | 27 | 中学校6年 | 仏教学1級 | 1987 | | | | | | | | | | ○ | |
| 51 | 29 | 中学校3年 | 仏教学1級 | 1982 | | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 40 | 20 | 中学3年 | 仏教学1級 | 1978 | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| 66 | 44 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1956 | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 47 | 26 | 中学教員特別免許証 | パーリ語6段 | 1988 | | | ○ | | | | | | | | |
| 81 | 61 | 小学校6年 | 仏教学1級 | 1944 | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | | | |
| 40 | 20 | 中学校3年 | 仏教学1級 | 1974 | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 58 | 38 | 高学校3年 | 仏教学1級 | 1982 | | | | | | | | | | ○ | |
| 41 | 21 | 中学校3年 | 仏教学3級 | 1977 | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | |
| 64 | 44 | 小学校4年 | 小学校6年 | 1979 | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | |
| 46 | 26 | 中学教員特別免許証 | 仏教学1級 | 1985 | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| 43 | 21 | 中学校3年 | 仏教学1級 | 1977 | | | ○ | ○ | | | | | ○ | | |
| 61 | 26 | 高学校3年 | パーリ語7段 | 1975 | | | | | | | | ○ | | | |
| 42 | 22 | 中学校3年 | 仏教学1級 | 1976 | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 54 | 33 | 小学校4年 | 仏教学1級 | 1979 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 60 | 40 | 中学教員特別免許証 | パーリ語6段 | 1957 | | ○ | | | | | | | | | |
| 34 | 14 | 高学校3年 | 仏教学1級 | 1985 | | ○ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 55 | 35 | 中学教員特別免許証 | 仏教学3級 | 1966 | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| 39 | 19 | 中学教員特別免許証 | 仏教学1級 | 1982 | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| 45 | 25 | 中学校3年 | 仏教学1級 | 1980 | | ○ | | | | | | ○ | | | |

## 別表 2　櫻井　東北タイ開発僧調査

| ケース番号 | 名　前 | 出　身　県 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Pra Chengyuthtana Shinyuto | Sakhonnakhon, Amper Meuang | Sakhonnakhon, Amper Meuang, Wat Dindaen | 35 | 12 |
| 2 | Pra Somsak Ananyo | Nongkhai, Amper Meuang, Tambon Phophisai | Udonthani, Amper Khutchap, Tambon Khutchap, Ban Phukaohin, thamchaidaitheepnimit | 51 | 21 |
| 3 | Sanjetprayuth | | Mahasarakham, Amper Kaedam, Tambon Kaedam, Ban Wangseang, Wat Uparat | 34 | 17 |
| 4 | Pra Tawee Tamothivo | Khonkaen, Amper Banfang, Tambon Raonadee, Ban Raoyai | Mahasarakham, Amper Kaedam, Tambon Wangsaeng, Ban Nokewa, Moo 1, Wat Aranyigawaat | 36 | 10 |
| 5 | Pra Opan Suviro | Nongbualamphu, Amper Naklang, Ban Gutro | Nongbualamphu, Amper Meuang, Wat Reuang-Uthai-sirimongkon | 48 | 28 |
| 6 | Pra Chamrat Chapanyo | Roi-et, Amper Pathumrat | Roi-et, Amper Pathumrat, Tambon Nongkaen, Wat Samran | 55 | 35 |
| 7 | Pra Kitti Sanprachot | | Mahasarakham, Amper Meuang, Tambon Waengnang, Ban Hinduan, Wat Kunchaonaram | 67 | 45 |
| 8 | Pra Sawan Piyathammo | Mahasarakham, Amper Wapipathum, Tambon Nakar, Ban Kuttao | Mahasarakham, Amper Nachuak, Tambon Nongreua kukhaat | 41 | 19 |
| 9 | Pra Pichit Thitomaro | Karasin, Amper Meuang | Nongkhai, Wat Hinmarkpean | 55 | 19 |
| 10 | Pra Noi Utaisa | Mahasarakham, Amper Kaedam, Tambon Wangseang | Mahasarakham, Amper Kaekam, Tambon Wangsaeng, Wat Burapanongbua | 46 | 26 |
| 11 | Pra Boomchu Tantisaro | Mahasarakham, Amper Meuang Ban Poronongka | Karasin, Ging Amper Kongchai, Tambon Nonsila, Ban Sawan, Wat Sawan | 87 | 14 |
| 12 | Pra Pattanakarnvi-chit | Karasin, Amper Yangtalat, Tambon Kaopranon, Ban Nagleua | Karasin, Amper Somdet, Wat Vitra-ongsawang | 46 | 24 |
| 13 | Pra Siri Yanawuttho | Yasothon, Amper Khamkhuan, Tambon Nonpeuay, Ban Songpeuay | Yasothon, Amper Khamkhuan, Tambon Nonpeuay, Ban Songpeuay, Wat Siriratpattana | 77 | 35 |
| 14 | Pra Prapit Jitawanno | Karasin, Amper Meuang | Karasin, Amper Meuang, Wat Pachaniyom | 36 | 14 |
| 15 | Pra Banget Ariyo | Sakhonnakhon, Amper Koksrisupanme, Tambon Torkohp, Moo 4, Wat Naaknimit | Karasin, Amper Meuang, Tambon Lamklong, Ban Ampawan, Wat Ampawanmuangnoi | 33 | 13 |
| 16 | Pra Mahaavuttho Chitpano | Khonkaen, Amper Chonnabot, Tambon Chonnabot, Ban Takoi | Karasin, Amper Nongkungsi, Tambon Nongsuang, Wat Nongsawan | 32 | 11 |
| 17 | Pra Hah Asoko | Nakhonphanom, Amper Renunakhon, Tambon Ponthong, Ban Donmak-eak | Nakhonphanom, Amper Renunakhon, Tambon Nongyangchin, Ban Nongyangchin | 48 | 24 |
| 18 | Pra Sing Dhampiro | Chonburi | Mahasarakham, Amper Kantharawichai, Tambon Srisuk, Ban Srisuk | 70 | 50 |
| 19 | Pra Pathom Warakit | Mahasarakham, Amper Borabu, Tambon Nonggua, Ban Dongua | Mahasarakham, Amper Borabu, Kwanmuanlabutham | 66 | 46 |

| 学　歴 | 僧学歴 | 開発開始年 | 寺院 | | 寺開発 | 教育(奨学金等) | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想修行・説法 | インフラ整備 | 環境 | 職業支援 | 自助組合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学校3年 | パリエン3段 | 1986 | タンマユット | 森の寺 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 中学校6年卒 | 仏教学1級 | 1990 | マハーニカーイ | 森の寺 | | ○ | | | | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1985 | タンマユット | 村の寺 | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 小学校6年 | 頭陀僧 | 1994 | マハーニカーイ | 森の寺 | | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| 中学校3年 | 仏教学1級 | 1969 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | | | | | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1993 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1987 | マハーニカーイ | 森の寺 | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 小学校4年 | | 1984 | タンマユット | 森の寺 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 大学卒（チュラロンコン大学工学部卒） | 仏教学1級 | 1978 | タンマユット | 森の寺 | | | | | | ○ | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1988 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | |
| なし | なし | 1983 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | | | | ○ | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | 1982 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | | | | | ○ | | | ○ |
| | 仏教学1級 | 1975 | タンマユット | 森の寺 | ○ | | | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 職業高校（農業） | 仏教学1級 | 1991 | タンマユット | 村の寺 | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 職業高校（電気） | 仏教学1級 | 1993 | タンマユット | 森の寺 | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 小学4年（中3修了資格あり） | 仏教学1級，パリエン4段 | 1992 | タンマユット | 村の寺 | | | ○ | | | ○ | | | | |
| 高等学校修了 | 仏教学1級 | 1987 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級，パリエン3段 | 1986 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| | パリエン4段 | 1973 | マハーニカーイ | 森の寺 | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | |

| ケース番号 | 名　　前 | 出　身　県 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | Pra Yot Yotchato | Surin, Amper Chompra, Tambon Grahat, Ban Lekdee | Mukdahan, Amper Mueang, Wat Suriboonluang | 66 | 46 |
| 21 | Pra Somshit Rakkhitsiro | Roi-et, Amper Salaphum, Tambon Tamuang, Ban Tamuang | Roi-et, Amper Selaphum, Tambon Tamuang, Tambon Tamuang, Wat Sartdaram | 40 | 20 |
| 22 | Pra Pradit Chatigo | Sakhonnakhon, Amper Swangdaendin | Roi-et, Amper Phochai, Tambon Akkakam, Ban Uaychai, Wat Prasopburiyaram | 44 | 9 |
| 23 | Pra Ma Nanwaro | Roi-et, Amper Selaphum, Tambon Nongkam, Ban Nongkam | Roi-et, Amper Selaphum, Samnaksong Tiwiwek | 84 | 64 |
| 24 | Pra Srichan Punnato | Roi-et, Amper Chaturaphak, Tambon Ee-ngong, Ban Nongnon | Roi-et. Amper Mueang, Wat Beungpraramchai | 60 | 40 |
| 25 | Pra Panlop Jinthammo | Kanchanaburi | Sakhonnakhon, Amper Phannanikhom, Tambon Sawang, Ban Kampramong, Moo 4, Wat Kampramong | 43 | 19 |
| 26 | Pra Krian Theetayuko | Sakhonnakhon, Amper Mueang, Tambon Dongmafai, Ban Dongmafai | Sakhonnakhon, Amper Meuang, Tambon Dongmafai, Ban Dongmafai, Wat Swangwattana | 60 | 40 |
| 27 | Pra Prashit Chatapano | Sakhonnakhon, Amper Mueang, Tambon Faengyang, Ban Panao | Sakhonnakhon, Amper Mueang, Tambon Faengyang, Ban Panao | 53 | 33 |
| 28 | Pra Pairat Yantoro | Ratchaburi, Amper Banpohng | Sakhonnakhon, Amper Mueang, Tambon Faengyang, Ban Muang, Wat Chiangdoitheparat | 32 | 8 |
| 29 | Pra somwit Thammaro | Ayutthaya, Amper Pakhai | Sakhonnakhon, Amper Phannanikhom, Tambon Rai, Watpa Tamkaam | 40 | 12 |
| 30 | Pra Jen Jantawongso | Loei, Amper Chiangkhan, | Loei, Amper Chiangkhan, Tambon Chiangkhan, Moo 4, Wat Takaek | 40 | 20 |
| 31 | Pra Sangkhom Sampanno | Roi-et, Amper Phanomphrai | Ubonratchathani, Amper Warinchamrai, Tambon Bongwai, Ban Takhoi, Wat Monfkon | 35 | 14 |
| 32 | Pra Boonchu Supajitto | Yasothon, Amper Patui | Ubonratchathani, Amper Warinchamrai, Tambon Sasaming, Wat Nongyai | 36 | 16 |

# 東北タイの仏教と開発

| 学　歴 | 僧 学 歴 | 開発開始年 | 寺　院 | | 寺開発 | 教育(奨学金等) | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想修行・説法 | インフラ整備 | 環境 | 職業支援 | 自助組合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1958 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 小学校卒 | 仏教学1級 | 1982 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | | | ○ | | | | | |
| 小学校4年 | なし | 1994 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| 小学校3年 | 仏教学1級 | 1977 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| ブリラム教育大より名誉教育学士号 | 仏教学1級 | 1959 | タンマユット | 村の寺 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | |
| カセサート大学工学部卒 | 仏教学3級 | 1995 | タンマユット | 森の寺 | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1979 | タンマユット | 村の寺 | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 1977 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | | | ○ | | | | | ○ | |
| 中学3年 | 仏教学1級 | 1996 | マハーニカーイ | 森の寺 | | | | | | ○ | | | | |
| タマサート大学商学科卒 | 仏教学1級 | 1992 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| 中学3年 | 仏教学1級 | 1989 | タンマユット | 村の寺 | ○ | | | | | | | | | |
| 高等学校卒業 | 仏教学2級 | 1992 | タンマユット | 森の寺 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | |
| | 仏教学1級 | 1987 | マハーニカーイ | 村の寺 | ○ | ○ | | | ○ | | | | | |

## 別表 3　ガマラーサイ郡　寺院調査

| ケース番号 | 名　　前 | 出　　身 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | somsuri kodpunno | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 polo 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 polo 村　pochaipolo 寺 | 58 | 17 |
| 2 | kraisoon yasapalaoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 huakwaa 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 huakwaa 村 phochaihuakwaa 寺 マハーニカーイ | 51 | 15 |
| 3 | kaseem paphatsaroo | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombuun 区 noongiibum 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 huanoong 村 anusawariiphochai 寺 マハーニカーイ | 53 | 6 |
| 4 | sawan putsuwaroo | kamphengphet 県 khrongkhom 郡 wagyaag 区 noogsoon 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 phaadoonyaag 村 phaadoonyaag 森の寺 タンマユット | 32 | 12 |
| 5 | phatomtham rakukhit | | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 phatomkesaraam 寺　マハーニカーイ | | |
| 6 | maha anan nimmolo | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 1 班 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 keetsamaakhom 寺　マハーニカーイ | 53 | 33 |
| 7 | khampun saatharoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 laat 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 laat 村 satthaaruambaanlaat 森の寺 マハーニカーイ | 36 | 9 |
| 8 | oon rakkitthotha mmoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 laat 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 laat 村 laat 寺　マハーニカーイ | 27 | 3 |
| 9 | uthai oophasoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 noonsawaang 村 phoosrinoonsawaang 寺 マハーニカーイ | 54 | 6 |
| 10 | inthrauichai (in) | kalasin 県 kamalaasai 郡 donling 区 doonwaai 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 pheegsriimuang 寺　タンマユット | 58 | 38 |
| 11 | platphim phathapannoo (phim　koognar-ong) | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 bung 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 bung 村 baanbung 寺　マハーニカーイ | 79 | 24 |
| 12 | siriphothitham | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 bunghai 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 bunghai 村 phosribunghai 寺　マハーニカーイ | 66 | 46 |
| 13 | saat sujitto | rooiet 県市内 | kalasin 県 kamalaasai 郡 lakmuang 区 lao 村 chaisribaanlao 寺　マハーニカーイ | 70 | 7 |
| 14 | phroma thaoro | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区市内 | kalasin 県 kamalaasai 郡 paaknam 村 12 班 anomaanthi 寺　マハーニカーイ | 71 | 4 |
| 15 | aaut ajaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 7 班 namjan 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 7 班 namjan 村 thamalaanthinamjan 寺 マハーニカーイ | 54 | 7 |
| 16 | pai phuthasaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 noongpeen 区 sema 村 7 班 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 doonploi 村 5 班 saaatchaisri 寺 マハーニカーイ | 74 | 24 |
| 17 | theng panyatthiko | kalasin 県 kamalaasai 郡 noongpeen 区 sema 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 kaolaam 村 baankaolaam 寺 マハーニカーイ | 36 | 9 |
| 18 | phing kamphutthasiri | chanthaburi 県 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 khaolaan 村 padongmaphaibutsabaraam 寺 タンマユット | 40 | 6 |

| 学　　歴 | 仏教学習 | 僧団内地位 | 開発開始年 | 寺開発 | 教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小4 | 仏教学1級 | なし | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | |
| 中学3年 | 仏教学1級 | なし | 2526 | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学3級 | なし | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | なし | なし | 2536 | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| | | 副郡僧団長 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ |
| 小学4年 | 仏教学1級，パリエン8段 | 区僧団長 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 中3と職業教育教員免許証取得及びラムカムヘーン大学ローイエット校で学習中 | 仏教学1級 | 区僧団長秘書 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学6年　現在中学過程のインフォーマル教育を受講中 | 仏教学1級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学2級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級パリエン3段 | 経験多数，引退 | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 小学4年 | 仏教学2級 | 郡僧団長 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 初級教員免許証取得 | 仏教学1級 | 区僧団長 | | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 高校3年 | 仏教学3級 | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 中学3年 | 仏教学1級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| 小学6年 | 仏教学1級 | | | | | | | | ○ | | | | | |

| ケース番号 | 名　　前 | 出　　身 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 19 | prauun kotpunno | khon kaen 県 phophuwiang 郡 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 6 班 doonyaangjansararaam 寺　マハーニカーイ | 23 | 3 |
| 20 | puunwan attothammo | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 3 班 songyaang 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 3 班 songyaang 村 phochaisongyaang 寺 マハーニカーイ | 35 | 2（初回12年） |
| 21 | pheng paphansaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 sarabua 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 5 班 sarabuaraatsadoonpradit 寺　マハーニカーイ | 72 | 10 |
| 22 | seengjan siriwaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 9 班 doonyung 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 9 班 doonyung 村 silarakdoonyung 寺 マハーニカーイ | 68 | 3 |
| 23 | phalatsomsri kotbunno | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 10 班 polo 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 kamalaasai 区 10 班 polo 村 phochaipolo 寺　マハーニカーイ | 58 | 17 |
| 24 | Janthi kittigo | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 7 班 nongiikum 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 7 班 baannongiikum 寺　マハーニカーイ | 40 | 20 |
| 25 | Phrom janthawangso | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 naamon 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 sarakheennaamon 寺　マハーニカーイ | 65 | 30 |
| 26 | Samrut phutthammo | | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 naamon 村 dongnaamon 保全林の phaksong（僧宿泊所） | 43 | 2 |
| 27 | si siripanno | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 5 班 phonthong 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 5 班 phonthong 村 khamphonthong 寺 マハーニカーイ | 72 | 16 |
| 28 | bunsuk panyakamo | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 3 班 giugaam 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 giugaam 村 giugaam 寺　マハーニカーイ | 74 | 4 |
| 29 | simchai jaruwanno | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 6 班 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 6 班 nongphai 村 nongphaikunnatham 修行場 | 40 | 5 |
| 30 | phim paphansoro | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 6 班 nongphai 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 baannongphongaam 寺　マハーニカーイ | 58 | 10 |
| 31 | soon mahayano | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 8 班 ratsasamraan 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombun 区 ratsasamraan 村 ratsabamrung 寺 マハーニカーイ | 64 | 3 |
| 32 | bunma yashinthoro | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 7 班 caotha 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 7 班 caotha 村 sawangkhongkhacengcom 寺 マハーニカーイ | 71 | 3 |
| 33 | phromrangs hibarirak（俗名 chingchai） | kalasin 県 namon 郡 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 6 班 thamai 村 phromrangshi 森の寺 タンマユット | 40 | 15 |
| 34 | suthoncariy abirak | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 muatee 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 2 班 muatee 村 muatee 寺　マハーニカーイ | 58 | 38 |
| 35 | khun jitmeetho | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 dongling 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 11 班 dongling 村 surikhanaramdongling 寺 マハーニカーイ | 72 | 5 |
| 36 | saman anantho | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 10 班 cod 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 10 班 cod 村 baanjod 寺　マハーニカーイ | 37 | 17 |
| 37 | suso nanthilo | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 9 班 nongbua 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 9 班 nongbua 村 pathomkesoonnongbua 寺 マハーニカーイ | 25 | 6 |
| 38 | kwanchai kantosilo | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanyaa 区 8 班 thaklang 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 3 班 thasamakki 村 baanmaisamakki 寺（寺院用地未下賜寺）　マハーニカーイ | 49 | 6 |

| 学　　歴 | 仏教学習 | 僧団内地位 | 開発開始年 | 寺開発 | 教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学6年 | 仏教学3級を学習中 | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 不明 | 仏教学2級 | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学3級 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 小学6年 | 仏教学1級パリエン4段 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | 副区僧団長 | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | 区僧団長 | | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学3級 | | | | | | | ○ | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学2級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 高校3年 | 仏教学1級 | | | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学3級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | なし | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級 | 区僧団長 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学1級 | 2539年より戒和尚 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 小学校4年 | 仏教学3級を学習中 | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級パリエン4段 | | | ○ | | ○ | | | | | | | | |
| 中学3年 | 仏教学2級 | 区僧団長秘書 | 2535 | | | | | | | | | | | |
| 小学4年 | 仏教学1級パリエン3段 | なし | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | |

| ケース番号 | 名　　前 | 出　　身 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 39 | prom narintho | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 5 班 nongmaklao 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 5 班 nongmaklao 村 maisamakkhitham 寺 マハーニカーイ | 68 | 25 |
| 40 | khamsri paphansoro | rooiet 県市内 dindam 区 kewachi 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 12 班 muatee 村 baanmuatee 森の寺道場 マハーニカーイ | 62 | 9 |
| 41 | prathipcant haraphan | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 thamuatee 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 1 班 thamuatee 村 baanthapheling 寺 | 41 | 18 |
| 42 | udon canthasaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 kaonoi 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 kaonoi 村 baankaonoi 寺　マハーニカーイ | 34 | 13 |
| 43 | canthi kawitsaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 thaklang 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 caotha 区 thaklang 村 thaklang 寺　マハーニカーイ | 63 | 16 |
| 44 | uicanthukit | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongphen 区 huanonploi 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 12 班 kee 村 thiphawanbaankee 森の寺 タンマユット | 73 | 21 |
| 45 | thaa rattanayano | udonthani 県 tanrieng 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 nongtimu 村 phrasaaikhantitham 森の寺 タンマユット | 71 | 9 |
| 46 | seng jitpunno | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 nongtu 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 nongtu 村 sengudomprasittharam 寺　マハーニカーイ | 60 | 5 |
| 47 | bunmi thinpanno | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 nonmakham 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 nonmakham 村 sawangarunnonmakham 寺 | 70 | 6 |
| 48 | monthian thirasaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 2 班 boo 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 2 班 boo 村 phengsriibaanboo 寺　マハーニカーイ | 30 | 5 |
| 49 | phong thammathinno | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 2 班 boo 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 2 班 boo 村 sriphothong 森の寺　マハーニカーイ | 59 | 30 |
| 50 | yutthana janthasalo | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 songploi 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 songploi 村 wiweektham 仏法道場　マハーニカーイ | 26 | 6 |
| 51 | khamphrai kotsalo | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 7 班 songploi 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 7 班 songploi 村 phothaongsongploi 寺 マハーニカーイ | 28 | 6 |
| 52 | khamsing canthuphamo | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 9 班 nongbua 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 8 班 nonkho 村 sawangdonkeo 寺 マハーニカーイ | 70 | 8 |
| 53 | sao santakitto | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 6 班 cikgam 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 6 班 cikgam 村 sawangarom 寺　マハーニカーイ | 74 | 3 |
| 54 | oonsaa canthawanno | rooiet 県 caghan 郡 dongsing 区 14 班 ploitan 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 saaatsomsriikhonooi 村 saaatsomsriikhonooi 寺　マハーニカーイ | 89 | 3 |
| 55 | bunyang khanthiko | udhon thani 県 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 11 班 somhong 村 sawangphosri 寺 マハーニカーイ | 56 | 26 |
| 56 | thanya wannokhun | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 kee 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 kee 村 baankee 寺　マハーニカーイ | 56 | 36 |
| 57 | sing sinwanno | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 5 班 saatsomsri 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 15 班 saatsomsri 村　マハーニカーイ | 84 | 20 |
| 58 | somchai sunthoro | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 10 班 huaeet 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 thanya 区 huaeet 村 phosribaanhuaeet 寺　マハーニカーイ | 52 | 31 |
| 59 | noi phutsaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 phoongaam 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 phoongaam 村 phoongaam 寺 マハーニカーイ | 52 | 23 |

| 学　　歴 | 仏教学習 | 僧団内地位 | 開発開始年 | 寺開発 | 教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学４年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 中等学校６年 | 仏教学１級 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 小学６年 | 仏教学１級 | 戒和尚の介添え | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | 区僧団長戒和尚 | | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | ○ |
| 小学４年 | 仏教学１級 | 区僧団長 | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | ○ |
| 小学４年 | 仏教学３級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学２級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 中等学校６年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 中等学校３年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 小学６年 | 仏教学２級 | | | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 小学６年 | 仏教学３級 | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 小学４年 | 仏教学３級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学３級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学２級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学２級 | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | thanya区１区僧団長 | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 中等学校３年 | 仏教学３級 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 中等学校６年 | 仏教学１級 | thanya区僧団長戒和尚 | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | 区僧団長 | | ○ | | ○ | | | | | | | | |

| ケース番号 | 名　　前 | 出　　身 | 寺　院　住　所 | 年齢 | 安居年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 | somu pranii | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 donhan 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 donhan 村 wasangdonhan 寺　マハーニカーイ | 42 | 21 |
| 61 | somsri sucitto | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 donhan 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 dongsaigaam 村 srisawangtham 森の寺 タンマユット | 59 | 31 |
| 62 | phim kusaloo | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 4 班 khooksii 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phonggam 区 khooksii 村と nongtao 村 srisawangphaibuun 森の寺　タンマユット | 67 | 16 |
| 63 | phong caruwannoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 khoksombuun 区 nongphai 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 6 班 noonhai 村 noonhaiulithayaaraam 寺 マハーニカーイ | 70 | 4 |
| 64 | khamthan aaphatsaro | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 2 班 doonnua 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 2 班 doonnua 村 prachaatratthaatham 寺 マハーニカーイ | 63 | 8 |
| 65 | prom paphansoroo | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 phoongaam 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 phoongaam 区 phoongaam 村 phoonthoong 森の寺 マハーニカーイ | 74 | 8 |
| 66 | phutthaa yasootree | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 seemaa 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 seemaa 村 phoochaiseemaaraam 寺 マハーニカーイ | 52 | 40 |
| 67 | buntham santakitto | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 nongpeen 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 4 班 nongpeen 村 phoochainoonsuug 寺 マハーニカーイ | 69 | 6 |
| 68 | bunrien attathammo | | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 naachuaku 村 phoothongsengcantha 寺 タンマユット | 48 | 27 |
| 69 | suwanadii teechathattoo | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 2 区 noonphoosrii 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 2 区 noonphoosrii 村 noonphoosrii 寺 マハーニカーイ | 50 | 8 |
| 70 | sirikhunnaaosai | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 nongpeen 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 nongpeen 村 nongpeen 寺　マハーニカーイ | 65 | 44 |
| 71 | oophaasawa raphan | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 4 班 naabung 村 | kalasin 県 kamalaasai 郡 nongpeen 区 4 班 naabung 村 sawangarunnaabung 寺 マハーニカーイ | 59 | 36 |

東北タイの仏教と開発

| 学　　歴 | 仏教学習 | 僧団内地位 | 開発開始年 | 寺開発 | 教育 | 仏教教育 | 託児施設 | 医療・癒し | 瞑想・説法 | 土木治水 | 森林保護 | 職業支援 | 自助組織 | 文化保護 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学４年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| | パリエン３段 | | 2529 | | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| 小学校４年 | 仏教学１級 | | 2525 | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 小学４年 | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校４年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | 仏教学試験監督 | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 中等学校３年中学教員特別免許 | 仏教学１級 | kamalaasai区僧団長 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| 小学４年 | 仏教学１級 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 学校にいっていない | 仏教学１級 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 小学４年 | 仏教学１級 | nongpeen区僧団長 | | ○ | | | | | | | | | | |
| 中等学校６年 | 仏教学１級パリエン３段 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |